



STUDY ABROAD MANUAL *2018*



宮崎国際大学 海外研修の手引き

平成 30 年度

目 次

はじめに	1
I. 海外研修の概要	
1. 海外研修プログラムについて	2
2. グローバル教育センターの業務内容について	3
3. 海外研修先大学について	3
(1) 研修先大学の選考基準	3
(2) 研修先の安全性	3
(3) サイトメンター	5
4. 海外研修履修要件について	5
(1) 履修コース概要および単位	5
(2) TOEICの点数	5
(3) ポートフォリオ	5
(4) 成績	6
5. 海外研修計画について	6
(1) 海外研修スケジュール	6
(2) 海外研修への出発	7
6. 海外研修の準備について	7
(1) 海外研修先大学の選択	7
(2) 海外研修先大学の決定	8
(3) 海外研修の申込手続準備とスケジュール	8
a. レントゲン撮影	8
b. パスポート	8
c. TOEFLテストスコア	9
d. 写真	9
e. 研修先の決定	9
f. 海外研修先大学への申込み	9
g. 結核と予防接種の証明	9
h. 学生ビザの申請	10
① 学生ビザ申請の有無と入国に必要な書類や手続き等	10
② 入国時に必要な書類	11
③ 預金残高証明書	11
7. 海外研修期間中の健康管理について	12
(1) 医療保険	12
a. MIC指定海外留学保険	13
b. オーストラリア及びニュージーランドへ行く学生の保険	14
c. 研修大学に独自の保険がある場合	14
(2) 研修先大学の医療サービス	15
(3) 現在健康に問題がある場合（持病等）の対応	15
8. 旅行計画の作成について	15
(1) 航空券の購入	15
(2) 研修前後の計画	16
(3) 自動車の運転	16
(4) 金銭について	17
<現地で銀行口座を開く>	17
<送金方法>	17
a. 都市・地方銀行からの電信送金	17
b. ゆうちょ銀行の国際送金	17

c. 海外専用プリペイドカードを利用した送金	17
<カード類等について>	18
(クレジットカードについて)	18
9. 海外研修事前指導セミナーについて	18
<各研修先でのオリエンテーションについて>	19
10. 宿泊施設について	19
<ホームステイに関する留意事項>	20
1) ホームステイの利点と欠点	20
2) ホストファミリーでの食事	21
3) 通学等	21
4) 問題の対処	21
11. カルチャーショックについて	22
<海外研修を終えた学生からのアドバイス>	22
12. 起こりうる典型的問題と不満について	22
13. 学内研修について	23
14. グローバル教育センター長と保護者のミーティングについて	23
(1) 三者面談	23
(2) 保護者説明会	24
15. 緊急連絡先について	24
16. 海外研修単位取得に係るガイドライン	25
<ポートフォリオ(諸課題集)について>	25
(1) 英語セクション	25
(2) 自由研究セクション	25
(3) 地域研究セクション1&2	26
<重要事項>	27
II. 参考資料－1	
1 在日公館リスト	28
2 在外公館リスト	30
3 荷物と郵送について	32
(1) 手荷物	32
(2) 郵送	32
III. 参考資料－2	
各研修先大学の紹介	33－51

はじめに

副学長・学部長 ベンジャミン・ビーターズ

本学の教育は、学生諸君が優れた日本語・英語両方の語学力及び高い思考力を身につけることによって、21世紀において有用な人材となる手助けをすることをその目標と考えております。従って、本学の学生は、世界の文化に対する理解を深めつつ、日本人としての自覚を持った青年として成長していきます。

学生達の第1年次は、リベラル・アーツ（人文・社会科学系）の諸領域に対する基礎的理解を育むこと、また英語で学ぶことに慣れることを主眼においてそのプログラムが組まれています。第2年次に学生達は比較文化の枠組みを学び、そしてその学んだことを海外での実体験に応用します。ですから、帰国し3年次に進む際には彼等は英語を十分に使えるようになっているのみならず、各自海外研修で得た経験を授業にも活かせるようになっています。

本学の教育哲学の中核でありますアクティブ・ラーニング（能動的学習法）は、学生に授業で学んだ諸概念を実際に使い、応用することを求めています。海外研修という経験は、実はこのアクティブ・ラーニングという考え方の最も具現化したものなのです。つまり、本学の授業は学生が海外の経験を最大限に生かす方途を身につかせ、そしてそこで得た経験は、次に帰国後の彼等の学習に活かされることになるのです。

この学問的学習と世界での実体験の組み合わせこそが、本学の教育の中核と言えます。私をはじめ教職員一同、海外研修から戻ってきた学生の中に新しく芽生えた自信、向上した人間性、物事に対するひたむきさ等、前には見られなかった新しい個性を見る時、一応にこの上ない喜びを感じざるにはられません。

I. 海外研修の概要

入学後1年半の課程を終えた後、学生は、原則、英語を母国語としている国の大学へ海外研修に出ます。海外研修の主な目的は以下の通りです。1) 実践的英語運用能力の育成(実践英語力の育成)、2)異なる言語、文化、価値観を乗り越えて建設的人間関係を構築することができるコミュニケーション能力と協調性の育成(グローバルコミュニケーション能力の育成)、3)それら培った能力を活用し、自ら見いだした課題を考察し(課題発見・考察能力の育成)、4)自分なりの結論を導き出す思考能力の開発・育成(クリティカル・シンキングの育成)。学生は英語の授業で自らの英語力を磨きつつ、滞在する国・地域を理解する努力を重ね、そして、それらを活かし、自らの研究課題に基づき一編の研究論文を作成することになります。

1. 海外研修プログラムについて

海外研修プログラムには以下の3つのタイプがあります。

1) メインプログラム

海外研修のフラッグシップ(中心的)モデルです。研修先大学は英語圏5カ国(アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド)に15大学が用意されており、主に8月から9月にかけて渡航し、本学の2年次後期にあたる1学期間(約16週間)をホームステイをしながら研修先大学(英語集中課程に所属)で学びます。研修先大学のプログラム開始日から終了日迄の期間を「海外研修期間」と呼びます(通常8月中旬から12月中旬迄)。教育効果(英語学習、コミュニケーション能力、多文化理解等)という点では最も優れたプログラムであることから、やむを得ない事情がない限り、2年生全員が本プログラムに参加することになります。

プログラム終了から次年度4月の3年次開始迄3ヶ月強ありますが、この期間はさらに英語あるいは異文化を勉強するいい機会でもあります。予算・安全等をよく検討した上で、可能であれば有意義にこの期間を過ごしてもらえしたいと思います。ただし、研修後の期間はあくまで個人の責任において過ごすことになりますので、くれぐれも無理することなく、健康・安全第一に計画を練ってください。研修後の過ごし方については、グローバル教育センター長に相談してください。

2) ハイブリッドプログラム

やむを得ない理由により長期の海外研修ができない学生に対し、学内での研修を2ヶ月、海外での研修を2ヶ月とした海外留学ショートプログラムが提供されます。学内研修は10月から始まり12月まで、そして、海外研修は翌年の1月から3月までの約2ヶ月間となります(研修先大学によって期間は多少異なります)。平成29年度現在、本プログラムの海外研修先大学(定員各8人)は、アメリカのソノマ州立大学、カナダのビクトリア大学の2大学のみとなります。

*研修先大学は変わる可能性があります。

3) アジアプログラム

アジア(韓国あるいは中国)に興味がある学生、若干名に対し、要件(成績、英語力等)を満たせば、本学の交換留学提携校である韓国のヨンナム大学、あるいは、香港のセンテニアル大学において海外研修を行う機会を提供します(英語力の要件は、ヨンナム大学でTOEIC600点以上、センテニアル大学でTOEIC750点以上となります)。本プログラムは他のプログラムとは異なり、英語あるいは英語圏の文化の理解を主な目的とはせず、隣国の韓国及び中国、そしてアジアへの理解を深め、今後国際社会で活躍したいと考えている学生に対し、早い時期からグローバルマインドを形成する機会を提供するためのものです。そのため、研修先大学では、英語科目(2科目)の他、正規科目(アジア研究等)3科目の履修が求められます。

*本プログラムは交換留学協定による派遣となるため、研修先大学での授業料は免除されます。

以下の項目は海外研修メインプログラムを念頭に記載されています。バイブリッドプログラム及びアジアプログラムについては、必要に応じて個別に説明を行います(ちなみに、平成29(2017)年度は、ハイブリッドプログラム、アジアプログラムとも参加者はいませんでした)。

2. グローバル教育センターの業務内容について

- 海外研修先大学のパンフレット等を用意し、海外研修先大学選定の相談、および指導を行います。個別面談も実施します。
- 学生の英語力、性格等も考慮し、どの英語教育プログラムが参加可能か、あるいは向いているかについて適切なアドバイスを与えます。
- 外国での生活費、気候、レクリエーション、ホームステイ、環境、英語授業のプログラム等の情報を提供します。
- 学生ビザ、医療保険、空港への出迎え、住居、その他海外研修に必要な諸手続のお手伝いをします。
- 経費効率のよい旅行計画を立てるお手伝いをします。
- 海外研修期間前後の活動（小旅行等）について相談に乗ります。
- 出発前の事前指導セミナーにおいて、安全、異文化理解、ホームステイ等に関する指導を行います。
- 海外研修期間中、適宜学生及び研修先大学担当者と連絡を取り、状況の把握、必要があれば適切な対応をします。
- 海外研修期間中に行った学業を確認し、その結果を学務部（学部長）に提出します。

3. 海外研修先大学について

（1）研修先大学の選考基準

主に以下の5つの基準をもとに海外研修先大学を選択しています。

- 1) 大学及び大学所在地域の安全性
 - 2) 研修先大学及び英語授業のプログラムの質
 - 3) 入学者に求められる英語力（TOEIC や TOEFL IBT で判断）
 - 4) プログラムの期間及び入学時期と本学の学年暦との整合性
- また、他の基準としては以下のものがあります。

- 国際空港への交通の利便性
- 宿泊施設（ホームステイ先）の確保
- 大学所在地の魅力（観光地等へのアクセス）
- 他国の留学生と接する機会の有無

（2）研修先の安全性

この騒然とした世の中で、安全性は私達の誰もが考えなければならないことです。完璧な安全はどこにも存在しません。私達が海外研修先大学を考える際にまず考慮したことは、大学が比較的安全な場所にあるかということ、そして次に、大学が学生の安全管理に相当の配慮をし、それなりの対策をとっているかということです。本学が研修先を選択する際には、その点に十分留意した上で研修先の選択を行っています。

また、出発準備の一環として、学生に対し安全についての指導を行います。海外研修先大学においても、到着するとすぐ、まず安全のためのオリエンテーションが行われ、安全に関する指導が行われると同時に、緊急連絡先等重要事項の周知徹底がなされます。

どんなに準備をしようとも、あるいは指導がなされようとも、結局は学生達自身が常に十分な注意を払って行動することが何よりも重要なことです。無責任な行動は絶対に取りやめること。そして、もめ事になるようなことには絶対に加担しないこと。これらが最善の安全策といえるでしょう。

なお、外務省では、海外に渡航する日本人の安心と安全のため、2種類の渡航登録サービスを提供しています。一つは、外務省海外旅行登録、通称「たびレジ」というものと、もう一つは、在留届電子届出システム「ORRnet」というものです。登録している場合には、必要に応じて、在

外公館から緊急一斉連絡メールなどが届きます。海外での思わぬトラブルを未然に防ぐために、必ず登録してください。なお、旅券法第16条により、外国に住所または居所を定めて3ヶ月以上滞在する日本人は、「在留届け」を提出することが義務づけられています。この届け出は、実際に現地に行った後に行うものですので、住所等が決まりましたら、外務省の「在留届電子届出システム（ORRnet）」サイト（以下がサイトのバナーです）から在留届を提出してください。



上記バナーをクリックすると、以下のサイトに行きます。基本、「たびレジ」は3ヶ月未満の渡航を予定している人が対象であり、基本3ヶ月以上の海外滞在を予定している本学の学生は、在留届を「ORRnet」から提出することになります。

海外へ渡航される皆様へ

「たびレジ」に渡航予定を登録する ▶

外務省海外旅行登録「たびレジ」

例えば…

- ☒ 家族で2週間海外旅行に行くことになった
- ☒ 1ヶ月間海外出張することになった
- ☒ 修学旅行で5日間海外に行くことになった
- ☒ 海外赴任中、隣国に視察に行くことになった

**3ヶ月未満の渡航
を予定している方** >>

「ORRnet」に滞在予定を登録する ▶

外務省

在留届電子届出システム「ORRnet」

例えば…

- ☒ 海外に転勤になった
- ☒ 海外に永住することになった
- ☒ 半年間留学することになった

**3ヶ月以上の滞在
を予定している方** >>

外務省では、海外に渡航される皆様の安心と安全のため、2種類の渡航登録サービスを提供しています。登録して頂いた方には、在外公館からの緊急一斉連絡メールなどをお届けすることができます。海外での思わぬトラブルを未然に防ぐため、是非ご利用ください。

* 旅券法第16条により、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する日本人は、「在留届」を提出することが義務付けられています。
 * 現在、外国にお住まいで既に在留届を提出された方も、別の国へ旅行や出張する際には「たびレジ」をご利用ください。

[海外安全ホームページへ](#)
[外務省ホームページへ](#)

「在留届」が提出されていないと、在外公館は皆さんが外国に居住していることを知り得ません。例えば、大災害の時や事件、事故の時、「在留届」があれば安否の確認、緊急連絡、救援活動、留守宅への連絡等を迅速に行うことができるわけです。もちろん、本学では、グローバル教育センター、研修先大学（本学担当者）、ホストファミリー及びその関係者、本学指定留学保険会社（後述）である東京海上日動火災（株）及び東京海上日動リスクコンサルティング(株)等が連携して危機管理情報を共有し、必要に応じて大学の危機管理体制のなか、必要なあらゆる対応を適切に取って

いきますので、ご安心ください。

(3) サイトメンター

各研修先大学には、「サイトメンター」と呼ばれる本学学生のための担当者がいます。このサイトメンターは、本学の教育プログラムや学生のニーズをよく理解している研修先の教員または職員です。学生は研修中にサイトメンターと定期的に会い、ポートフォリオ（後述）の作成指導を受けるとともに、日常の様々なアドバイスを受けることができます。

4. 海外研修履修要件について

(1) 履修コース概要および単位

SA201 英語（ESL）（6単位）

英語の口語表現、読解、作文、聴き取りの集中訓練。
学生は英語力に応じてクラス分けされます。

SA202 自由研究（2単位）

自らの研究テーマを設定し、ライブラリーリサーチ（図書館での資料検索および文献調べ）やフィールドワーク（研究対象の観察、地域住民・学生への聞き取り調査やアンケート等）を通して独自の研究論文をまとめます。

SA203 地域研究（6単位）

研修先地域あるいは国の理解を深める目的に合致する科目（選択科目）の受講、自身の体験（ボランティア活動、旅行等）や観察を通して得た滞在国・地域に対する新たな知見をレポートやエッセイにまとめます。

海外研修総単位数：14単位

(2) TOEIC の点数

海外研修先大学の選定にあたってはTOEICテストの得点が重要な指標となるため、学生は、基本、1年次後期（1月）に行われる TOEIC テストを受験することが求められます。また、海外研修後は4月初旬に再度 TOEIC テストを受験してもらいます。後者は英語力における海外研修の成果を測るためのものです（TOEIC テストの費用は本学が負担します）。なお、**3年次進級要件の一つとして、TOEIC500点（または TOEFL IBT45点）が設定**されていますので、海外研修前（あるいは海外研修中）にその点数を取得していない学生については、翌年の3月に TOEIC テスト受験の機会を提供します。

(注意)

1. 学生は、原則として海外研修先大学の集中英語プログラム（呼称は大学により異なる）に所属することになります。
2. ただし、TOEFL IBT の得点が一定以上（研修先によって異なる）の学生は、各大学のプログラムにおける科目の選択の幅が広がります（正規授業の聴講が可能になる場合があります。）。
3. 研修先大学は、各プログラムの参加要件及びグローバル教育センター長の指導・許可により最終決定されます。

(3) ポートフォリオ

海外研修中に、各学生は「ポートフォリオ」を作成します。これは「英語」「自由研究」「地域研究」の枠組み中で行った学修（含、選択授業）及び諸活動（サービス・ラーニング/インターンシップ、ボランティア活動）等の集大成となります。40ページ以上の自作のエッセイや論文を

作成し、提出します。写真や観光パンフレットなどもこの中に含めることはできますが、学生は自分で書いた文章で40ページ以上のポートフォリオを作成することが求められます。学生は、このポートフォリオを海外研修終了時まで作成し、サイトメンターに提出します。完成したポートフォリオは、サイトメンターからチェックを受けた後、学生自身により自らの Mahara にある ePortfolio にアップロードされ、グローバル教育センターにおいて評価されます（詳しくは p25～27 参照）。

（４）成績

海外研修科目の成績は、合格/不合格の2つになります。以下の2つの基準で判定します。

1. 研修先で登録したすべてのクラス（活動）をパスすること。成績はプログラム終了時にグローバル教育センター長に送られます（いくつかのプログラムでは最低出席回数が合格のために必須となります）。
2. 研修先の定めた期限までにポートフォリオを完成させ、ウェブ上にアップロードすること。

5. 海外研修計画について

（１）海外研修スケジュール

〈1年次後期〉

- 第1回海外研修説明会（平成29年10月15日〔日〕）
- 海外研修インフォメーションフェア
- **個別面談・指導（11月～（翌年）2月、及び冬季休業期間）**
＊携帯番号、住所、保護者等情報の提供
- 研修先大学選択のための資料・情報チェック（ウェブ及びグローバル教育センターを利用－10月末～）

〈2年次前期〉

（日程関係）

- パスポート、顔写真2枚（4.5 x 3.5 cm）の提出（4月2日（月）～8日（日）まで）
- 海外研修情報収集及びアドバイス期間（4月2日（月）～18日（水））：海外研修先大学選定のため）
- **第2回海外研修説明会（4月8日（日））**
- **海外研修先大学選定会（4月18日（水）（予定）**：当日2年生は全員1-307教室にて研修先を選択します。）＊具体的日程についてはまた連絡します。
- 海外研修先大学変更期間（4月19日（水）～23日（月））
- **海外研修先大学の最終決定（4月23日（月）17：00）**

（手続き関係）

- 研修プログラム及びホームステイの申込み、学生ビザ申請（研修先毎に手続きの日程を連絡します。）
- 緊急時対応者の決定（各学生は、研修先での緊急事態に備えて、パスポートを所持し、研修先まで行くことが可能な家族を保護者と相談の上決めておくこと。）
- クレジットカードおよび海外留学保険の申込み（全体会を開催）
- 航空券の予約・購入（旅行計画、予約、購入は各学生が自己の責任において行う。）
＊渡航スケジュールは海外研修ディレクターに必ず報告のこと。
- 海外送金方法の決定と必要な手続き（キャッシュパスポート等申込み）
- 海外で使用する電話、海外から日本への連絡方法の決定・確保
- 予防接種証明書の取得（一部のアメリカ大学研修生のみ）

（その他準備関係）

- TOEFL IBT(Internet-Based TOEFL)の受験

*TOEIC で高得点を取っている学生は、有料とはなりますが、できれば TOEFL IBT の受験を勧めます（研修先大学における正規授業受講許可が事前に受けられるため）。

- 研修期間以外の 3～4 ヶ月の旅行・学習計画の立案
*経済的かつ時間的に余裕があるようであれば、研修終了後継続して語学研修を続けることを勧めます。ただし、「海外研修」期間外は、大学は一切責任を負いませんので、あくまで慎重にプランを練って下さい。
- 海外研修事前準備セミナー（異文化理解、安全対策、ホームステイ留意事項、入国・出国手続き等）への参加
*学生は必ず出席することが求められます。
- 「海外研修」単位取得に係る履修要件の一つである、ポートフォリオ作成に関する事前指導セミナーへの参加（「英語」「自由研究」「地域研究」作成上のガイドラインの確認と諸注意の理解）
*学生は必ず出席することが求められます。
- 出発準備の確認（早期到着時の宿泊と空港出迎え手配等の確認を含む）
- 希望による三者面談の実施（事前予約要）

（２）海外研修への出発

学生は多くの場合、本学の前期終了後の 8 月中旬から下旬にかけて、海外研修へ出発します。研修先によって授業開始時期は異なりますが、一般的にアメリカの大学は 8 月中旬、オーストラリア、イギリスの大学は 8 月下旬から 9 月初めにかけて、カナダ及びニュージーランドの大学は 8 月始めから下旬と、大学によって大きく異なります。

研修期間はどの研修先においても 15～17 週間ですが、1 つの継続したプログラムである場合と、2 つのプログラム、あるいはセクションが短い休みを挟んで組まれている場合もあります。

6. 海外研修の準備について

（１）海外研修先大学の選択

学生は必要に応じてグローバル教育センター長と相談・協議の上、研修先大学を決定します。海外研修センターには、カタログ類、プログラムの説明書等が置いてありますが、今は各大学のホームページの方が紙媒体よりも充実していますので、各大学のサイトをしっかり確認して情報を得てください。また、各大学の紹介をしている動画が YouTube に多くありますので、そちらも参考にしてください。海外研修先大学を決めるにあたっては、自分なりのチェックリストを作成し、内容を十分確認後、優先順位をつける等工夫しつつ、効率よく決定作業を行ってください。

（チェックリスト項目例）

- 研修地（国、州、地域、市等）
- 英語の種類（イギリス英語、アメリカ英語、カナダ英語、オーストラリア英語、ニュージーランド英語等）
- 気候・天候の違い
- 研修地の規模（大都会、小都市等）
- 生活および自然環境（自然、史跡、著名な文化施設等の有無）
- スポーツ施設、美術館、コンサート、ショッピングモール（生活関連施設）等の充実度
- 治安（町の規模が小さい程安全度が高いと一般的に考えられています。）
- 授業料、宿泊費、生活費、旅行費用、その他必要と考えられる諸費用
- 大学キャンパスの規模
- 英語プログラムの規模
- TOEFL の点数（一部の大学のみ）
- プログラムの期間と週当たりの授業時間（同一学費でもプログラムによって授業時間数が異なります）
- プログラムの開始及び終了時期
- 自由研究の課題（自分の興味あるテーマとの関連で考慮）
- 旅行、自主的勉強、ボランティア活動等の機会の有無

研修先を決定するにあたっては、家族や友人とじっくり話し合うことはもちろん、海外研修から帰国した先輩の体験談を聞くことを勧めます。また、決定前に各大学の特色を十分に吟味・理解しておくことが大切です。どの大学にもそれぞれ個性があります。学生にとってこの決定は困難なものです、これは自分の人生に責任を持つことへの一歩になるとの自覚のもと、悔いのない選択をしてもらいたいと切望します。

(2) 海外研修大学の決定

本学の海外研修は少人数派遣を前提としているため、各研修先大学につき原則 8 人までの派遣となります。

前述の通り、研修大学選定期間は、4 月 1 8 日（水）から 2 3 日（月）までの 6 日間です（但し、2 4 日（月）は午後 5 時までとなります）。まず4 月 1 8 日（水）の指定時刻に、学生は 2 号館 3 0 7 教室に集合し、海外研修先大学選定会に参加します。選定会では学生の名前が書かれたクジが無作為に引かれ、読み上げられます。そして、名前が呼ばれた順に希望する研修大学の登録を行います。1 大学につき 8 人までという人数の制限がありますので、すでに制限人数に達している大学にはそれ以上名前を書き入れることはできません。制限に達した大学についてはキャンセル待ち名簿（ウェイティングリスト）を作りますので、できればその大学に行きたいと考えている学生は、まずは、まだ席のある大学へ登録し、その後、ウェイティングリストに名前を記入してキャンセルを待つこととなります。該当大学にキャンセルが出て人数に空きが出た場合は、その名簿の順に登録できることとします。なお、パスポート及び ID 写真等の提出物を提出期限後に提出した学生については、研修先選定において優先権がなくなります。これらの学生については、提出期限を守った他の学生全員が研修先を選んだ後にそれぞれくじが引かれ、登録が可能となります。

4 月 1 9 日（木）から 2 3 日（月）の午後 5 時まで、研修先大学の変更を受け付けます。但し、変更する大学が定員をオーバーしていない場合に限りです。4 月 2 3 日（月）午後 5 時に研修先選定期間は終了となり、研修先大学が最終決定されます。

(3) 海外研修の申込手続準備とスケジュール

研修先が決定次第、以下の準備に入ります。これらは、海外研修前の 4 月、5 月に準備されなければなりません。

a. レントゲン撮影

4 月（上旬）に本学で行うレントゲン撮影を受けること。研修先によっては検査結果の提出を求められることがあります（2 0 1 7 年度実績については、下記、g. の項の表を参照）。学生は自身の健康管理のため、また結果の提出を要求されることも想定して、必ず受診してください。アメリカでの研修を希望している学生については、レントゲン撮影の診断証明書を準備する必要がありますので、必ず受けてください。結核にかかっていないことを証明する書類を作成するために必要となります。

b. パスポート

パスポートは各自責任を持って自分で取得し、2 0 1 8 年 4 月 8 日（日）までにグローバル教育センター長に必ず提出して下さい。すでにパスポートを持っている場合は、現地での滞在に十分な残存有効期限があるかどうかを必ず確認して下さい。国によっては学生 VISA 申請時や入国時に残存有効期限の制約がある場合がありますので、十分な注意が必要です。

例 1：ニュージーランド学生ビザ申請には、滞在期間プラス 3 ヶ月以上残存有効期限のあるパスポートが必要。

例 2：台北を経由する場合、パスポートに 6 ヶ月以上の残存有効期限がなければ入国できない。

- * 家族で緊急時対応者となっている方も、海外研修終了時まで有効なパスポートを持っている必要があります。

c. TOEFLテストスコア

TOEIC の点数が高い学生（800点以上）で英語プログラム以外の授業（研修先大学の正規科目）の履修に興味がある学生は、TOEFL IBT の受験を強く勧めます。なお、このことは研修先大学の選定に関わりますので、事前にグローバル教育センター長とよく相談して下さい。

d. 写真

4.5 cm×3.5 cmの写真を2枚用意し、2018年4月8日（日）までにグローバル教育センター長に提出してください。各写真の裏には名前（アルファベットでフルネーム）を忘れずに記入して下さい（アメリカのビザを取得するためには、別途5cm x 5cm 背景白の写真が1枚、また、デジタル写真も必要となります。その指示は後日行います）。

e. 研修先の決定

2018年4月23日（月）午後5時までに研修先大学を決定します。

f. 海外研修先大学への申込み

研修先大学決定後、早い時期に申込みを行います。申込みは、大学によってウェブ上であったり、紙媒体であったりとまちまちです。その時期になると、グローバル教育センター長がミーティングを開き、申込書類の作成にあたります。ミーティングの連絡は学内電子メール（Sky メール）を通して行います。研修先大学がアメリカの場合には、その際、預金残高証明書（英語表記）1通が必要となります。

g. 結核と予防接種の証明

アメリカの場合は、3カ所の研修先大学で複数の予防接種を受けた事実やレントゲン撮影（結核検診）の結果を証明する書類が要求されます。本学でその様式は作っていますので、それらの大学を希望する学生は、これまでに予防接種を受けた証明（母子手帳による）を持って、本学指定の病院（しおもりクリニック（池田台加納バイパス沿い））に行き、その証明書に医師から署名をもらう必要があります。その証明（母子手帳にあるべき予防接種の記録）がない場合には、日本を出発する前か、または研修先大学において、それらの予防接種を受ける必要があります。証明が必要な大学は以下の通りです。

	結核(レントゲン)	MMR（はしか、おたふく風邪、風疹の3種混合） （2回接種要。麻疹と風疹に抗体がある血液検査の証明でも可。）
サンマルコス	○	○
アリゾナ	○	○
ソノマ	○	○

h. 学生ビザの申請

各研修先への手続きが終わると、研修先から学生ビザ申請に必要な書類が本学に送られてきます。グローバル教育センターではその書類を受け取り次第、ビザミーティングを招集し、学生ビザ取得に必要な書類を作成します。学生ビザ申請に伴う手続は国によって異なり、また随時改訂が加えられることが予想されますので、具体的な情報は、2018年に該当する学生に対して適宜連絡します。ちなみに、2017年度は以下の通りでした。

① 学生ビザ申請の有無と入国に必要な書類や手続等（2017年度）

<オーストラリア>*ビザが必要

- 入学許可（Confirmation of Enrollment）番号
- インターネット上での学生ビザ申請
*ビザはパスポートに貼付されるのではなく、代わりにビザ確認電子メールが届く。
- 学生あるいは保護者のクレジットカード情報（種類、名前、番号、有効期限、セキュリティーコード）—\$565.49のビザ申請料をインターネットで支払うため
- 出席証明書（以前オーストラリアに留学経験のある学生のみ。出席率 90%以上あることが必要）

<イギリス>*6ヶ月以内の滞在の場合には学生ビザ必要なし。

- 入国手続きを行う空港（初めて着陸する空港）で入国許可書が発行される。
- 6ヶ月以上の滞在を希望する場合は、早めにグローバル教育センター長に相談すること。

<アメリカ>*ビザが必要

ステップ1：申請書の準備

- 入学許可書（I-20）*学生サイン済みのもの
- 学生ビザ申請書（DS-160、ウェブ上で作成）
- パスポート（オリジナル、滞在予定期間より6ヶ月残存有効期限が必要）
- 写真1枚（5cm×5cm、背景は白に限る）
- デジタルフォト（ウェブ上でビザ申請を行う時に必要）*宮崎カメラ（赤江店）を推奨
- 学生自身あるいは保護者のクレジットカード情報（種類、名前、番号、有効期限、セキュリティーコード）—SEVIS（米国学生データベース）登録料 200ドル、ビザ申請料 18,400円をインターネット上で支払うため
- 預金残高証明書原本1通
 - 英文で作成されたもの（米ドルに換算して記載）
 - 滞在期間中の滞在費として十分な金額であること（最低 15,000ドル）

ステップ2：面接を受ける

- 通常は個人での予約・面談となるが、本学の学生の場合は、福岡領事館でグループ予約・面談となる。日程は現在のところ未定であるが、7月上旬から中旬の予定である。面接に必要な書類はグローバル教育センター長から直接領事館へ送付するため、面接当日はパスポートのみ持参する。
- 事情があり他学生と別の日程で面接を受ける場合は、個人で適切なアメリカ大使館、又は領事館での面接の予約をインターネット上で行わなければならない。
- ビザは面接後、問題がなければ1週間後くらいに発行され、パスポートとともに本学に送付される。

<カナダ>*ビザは必要ないが、電子渡航認証（eTA）の取得（\$7）が必要。

- 入国手続きを行う空港（初めて着陸する空港）で入国許可書が発行される
- 6ヶ月以上の滞在を希望する場合は、早めにグローバル教育センター長に相談すること。

<ニュージーランド>*ビザが必要

- インターネット上での学生ビザ申請
- 研修先大学からの入学許可証のコピー
- 研修費用支払い証明書 (MIC が全額を立て替えて支払い、支払い証明書を受領)
- 宿泊及び宿泊費用支払い証明書 (MIC が全額を立て替えて支払い、支払い証明書を受領)
- パスポート (オリジナル。滞在予定期間よりも3ヶ月余分に残存有効期限が必要)
- 預金残高証明書 原本1通
 - 学生本人の口座であること
 - 預金残高は日本円で90万円以上あること
 - 発行後30日以内のものであること
 - 英文で記載され、ニュージーランドドルで換算された金額が記載されていること

② 入国時に必要な書類

7月に行われる出発前ミーティング時に詳しい説明を行いますが、以下がその書類等です。

<オーストラリア>

- パスポート (ビザは入国手続時にパスポートに貼付される)
- ビザ確認電子メールを印刷したもの
- 研修先大学からの入学許可証
- 復路航空券

<イギリス>

- パスポート
 - 研修先大学からの入学許可証
 - 預金残高証明書 (必須ではない)
 - 復路航空券
- (注意) 6ヶ月以上滞在する場合にはビザが必要

<アメリカ>

- パスポート (ビザはパスポートに印刷されている)
- 研修先大学からの入学許可書 (I-20)
- 復路航空券

<カナダ>

- パスポート(eTA 登録済であること)
 - 研修先大学からの入学許可証
 - 預金残高証明書 (必須ではない)
 - 復路航空券
- (注意) 6ヶ月以上滞在する場合にはビザが必要

<ニュージーランド>

- パスポート (ビザは入国時に確認される)
- 研修先大学からの入学許可証
- 復路航空券

② 預金残高証明書とは

研修中の経費負担能力を証明するためのもので、プログラムへの参加申請、学生 VISA 申請時に大使館に提出 (アメリカ、ニュージーランド)、及び入国時 (カナダ、イギリス) に提示する場合 (必須ではない) があります。研修費、滞在期間中の生活費に十分な額が必要です。グローバル教育センター長の指示にしたがって適切な金額の証明書を発行してもらってください。

銀行、信用金庫、郵便局のいずれでも、通常即日発行されます (有料。但し、入金と同時に発行されません)。

預金残高証明書は、通常、発行後30日間のみ有効です。あまり早く取得しておくとな必要時に有効期限切れとなり、再度取りに行かねばなくなることがあります。指示に従って下さい。

証明書は原本でなければなりません。英文の証明書が必要ですので、金融機関には、くれぐれ

も英語で作成してくれるよう依頼してください。

金額は日本円で構いませんが、金融機関担当者に、当日のレートで現地通貨相当額を併記してくれるよう依頼してください。

できれば本人名義のものがいいですが、本人名義でなくても、家族の方のもので名字が一緒ならその方のもので構いません。しかし、その場合は、名義者本人が下記のように記入しなければなりません。

例：

These Funds will be used in support of Hanako Kokusai (学生名)

Signed: Taro Kokusai (保護者名)

Date: June 15, 2017 (日付)

但し、ニュージーランドは本人名義の預金残高証明書でなければいけません。

預金残高証明書に必要な金額は国によって、また滞在期間によっても変わってきますが、2017年度の実績は次の通りです。

<アメリカ>

研修先プログラム申込時（5月）に1通、また、学生ビザ申請時（7月）に1通の、計2通が必要となります。同時に2通は取らないでください。通常 15,000 ドル以上が必要です。

<イギリス>

滞在の長さにもよりますが、約 4,500 ポンド（約 80 万円）あれば十分です。ただし、これは絶対に必要なものではありません。入国時に入国審査官によっては十分な滞在費用を持っているかを聞く場合があり、その際に現金、クレジットカード等を提示してそれを証明でき、相手が納得すれば必要はありません。仮にそのような場面に遭遇することになった時に、財政証明書として持っておくと便利であるというくらいのもです。用意しておく場合は、イギリス入国前30日以内に発行されたものを持参してください。

<カナダ>

イギリスと同様、特に必要はありませんが、念のために持っていくのであれば、一月あたり2,000 カナダドル、4ヶ月であれば、合計 8,000 カナダドル以上のものを持っていけばいいでしょう。

<ニュージーランド>

最低 12,000 ニュージーランドドル。学生ビザ申請時に必要。

☆全研修先共通の重要事項：

1. 預金残高証明書は英文のもの。
2. 日本円と現地通貨の両方での金額の記載が必要。基本は金融機関で記載してもらうが、できない場合は自分で記入する（ニュージーランドは除く）。
3. 証明書が自分名義の口座でない場合は、11ページの要領での記載が必要（ニュージーランドは必ず学生自身の口座が必要）。

7. 海外研修期間中の健康管理について

（1）医療保険

海外研修期間中、全学生に MIC 指定の海外留学保険への加入が義務づけられています。これは全学生の保険を一本化することによって、万が一事故が発生した場合に迅速、適切な対応を行うためです。海外研修が終了した後も引き続き海外に滞在する場合は、その期間も含めて海外滞在全期間について保険をかけて下さい。

a. MIC 指定海外留学保険（学研災付帯海外留学保険）

海外留学保険については、様々な観点から慎重に検討した結果、その経験の豊富さ（多くの大学の海外留学プログラムを担当）、世界的ネットワーク、24時間日本語電話サービス、現金不要で治療を受けられる「キャッシュレス・メディカル・サービス」その他多くのサービスが学生の海外滞在中の安全確保のためには必須と判断し、また本学との連絡の効率性も考慮した結果、東京海上日動火災保険株式会社の海外留学保険を本学の海外研修・留学の際の指定保険としています。また、平成27年度からは、同保険会社の海外留学保険が学研災付帯海外留学保険となったため、本学がその実施に係る留学については、通常の保険料が大きく割引されます。平成29年度の割引実績は40.5%でした。保険対象項目としては、傷害、疾病、賠償責任、救援者費用、携行品など、海外留学保険としては必須の項目を全てカバーしています。2017年度の保険料金は、次の通りでした。＊2018年度は変更の可能性があります。

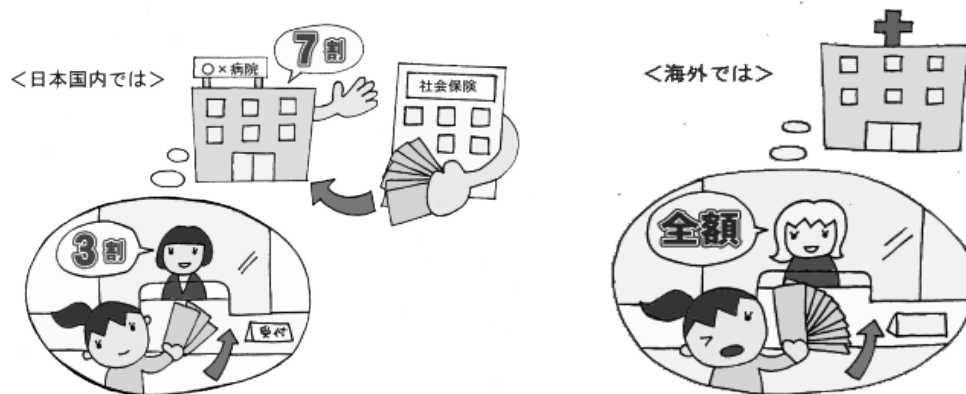
	学研災付帯 海外留学保険
傷害死亡	1, 000万円
傷害後遺障害	1, 000万円
治療・救援者費用＊	無制限
疾病死亡	1, 000万円
留学生賠償責任	1億円
携行品損害	10万円
緊急一時帰国	50万円
航空機寄託手荷物	10万円
航空機遅延費用	2万円
5ヶ月まで	44, 350円
6ヶ月まで	54, 010円
7ヶ月まで	63, 770円
8ヶ月まで	73, 540円
9ヶ月まで	83, 600円
10ヶ月まで	93, 490円

＊上記「治療・救援者費用」における治療・救援者費用保険金額無制限とは、1回のケガ、病気、事故の支払限度額を無制限とするものであり、治療・救援費用を一生涯補償するものではありません。

＊場合によっては治療時にその費用を直接支払わなければならない場合があります。その場合、後日治療明細（病院が発行した診断書）と領収書を提出して払い戻しを受けることになります（このような場合に備えて、VISAやMasterカードのような大手クレジットカードの携帯を勧めます）。また、盗難事故の場合には警察署に届けを出し、警察署発行の盗難証明書を持ち帰る必要があります。尚、この保険には自動車運転者賠償は含まれていません。

Q. なぜ留学保険への加入が必要なのか？

A. 海外留学に必要な保険の中で最も重要な部分は、「治療・救援費用」の部分です。集中治療室に入れば、一晩で100万円前後の費用がかかることもざらです。以下が日本と海外の違いです。



つまり、日本では治療費の3割を自己負担すればいいが、海外では全額が自己負担となります。しかも、その費用は、ケガや病気の程度によりますが、日本に比べて極めて高額になります。例えば…

- Case 1：高速道路で対向車と衝突。大腿骨骨折、上腕骨骨折、鎖骨骨折など受傷しカナダで約3か月間入院の後帰国。治療費：約750万円
- Case 2：アクティビティー中に木から落ちて、背骨を骨折。治療費：約1200万円
- Case 3：ローラースケートで転倒し、硬膜外出血。治療費：約870万円
- Case 4：スキーに行き、事故で大腿骨を骨折。治療費：約400万円
- Case 5：カップラーメンを膝にこぼして火傷を負ったため病院へ。治療費：約35000円。

また、保険の内容によっては治療を断られることもあります。



海外は損害賠償については極めて厳しいので、他人の物を誤って壊してしまった時に頼りになる「損害賠償」保険も重要になります。また、携行品の紛失、破損についてもカバーされている方が安心です（注意：プランによって保証される額が異なります）。

以上のような理由から、海外の大学での長期に渡る研修には、十分な内容を持った保険（海外留学保険）に加入することが義務づけられます。ほとんどの研修先大学では保険証書の提示が求められます。なお、保険加入期間は、長めに設定しておくこと。使わなかった期間は1月単位で返金されます。

b. オーストラリア及びニュージーランドへ行く学生の保険

オーストラリア政府は全留学生に対して、海外学生健康保険（OSHC）への加入を義務付けています（2017年度は、滞在期間によって異なりますが、404ドル～504ドル（ウォロンゴン大学）と275ドル（ニューキャッスル大学）でした。）。しかし、この保険は、ほぼ医療費のみの保障となっており、また、旅行中の事故等については保証がありませんので、十分な保障内容とは言えません。そのため、本学の海外研修プログラム参加にあたっては、この保険と上記東京海上日動火災の海外留学保険の両方に加入してもらうことになります。

また、ニュージーランドも国として指定の保険への加入を義務付けていますが、本学指定の保険会社が政府に認可されているとの理由から、2017年現在、国の保険への加入の必要はありません。

c. 研修大学に独自の保険がある場合

大学によっては独自の医療保険への加入を義務付けている場合があります（2017年度実績ではアリゾナ州立大学のみ）。しかし、各大学独自の保険は現地滞在期間のみをカバーし、出国してから現地に入るまで、現地での旅行中、現地を出発し日本に帰国するまでの期間等はカバーされま

せん。またその内容も不十分であることが多く、学生には研修先大学独自の保険と本学指定の保険の両方に加入してもらいます。

(2) 研修先大学の医療サービス

海外研修先大学には、風邪等軽い病気に対する薬等は常備してあります。そしてほとんどの大学には診療所（ヘルスサービスセンター）があり、医療スタッフがいます。研修先大学到着時に行われるオリエンテーションでこれらの設備・施設の利用法についての説明があります。また、医療緊急時の連絡先および電話番号、そしてその時どのような行動を取るべきか等についても情報が与えられます。

(3) 現在健康に問題がある場合（持病等）の対応

現在健康に問題のある学生、又は特別の治療・医療が必要な学生は、海外研修出発前にかかりつけの医者に会い、必要なことは全て尋ね、健康の維持・管理に努めて下さい。また、海外へ出る際は必ず過去の治療・処方・病歴等を英訳し、それを常に携行するようにして下さい。もし健康状態の問題があれば、研修先を選択する前にグローバル教育センター長に知らせてください。健康上の問題が深刻で、緊急医療等が必要となる可能性が高い場合は、「学内研修」の選択を考慮して下さい。

8. 旅行計画の作成について

(1) 航空券の購入

旅行の手配は学生が各自の責任で行うこととなります。本学には HIS の方が来てくれて格安航空券の紹介等をしてくれますが、最終的にどこの旅行代理店を使うかは学生自身で決定することになります。飛行便の予約が出来たら、英語での旅程表を作ってもらうよう代理店に依頼し、そのコピーをグローバル教育センターに提出して下さい。これは各学生が研修プログラム参加のために適切な日時に出発、そして到着するかを確認するとともに、現地空港での出迎えを設定するために必要となります。

学生には自分の責任で出来るだけ有利な航空券（国内外）を購入すべく、また限られた旅費を最大限に活かして使うべく、創意と工夫をもって旅行計画を立てることが期待されます。また安全対策として、同じ研修先大学へ行く学生達は、出来る限り一緒に旅行計画を立てる努力をしてもらいたいと思います。多少の妥協をしてでも一緒に行く方が、事故の防止、順調な海外研修のすべり出しという点からも大きなメリットがあります。

[滞在可能な期間について]

旅行日程を立てる際には学生ビザの有効期限についても考慮すること。国によってはプログラム終了と同時に学生ビザが無効となり、滞在期間の延長には現地入国管理局での手続きが必要となる場合があります。2017年は下記の通りです。

<オーストラリア>

プログラム終了時から1ヶ月。延長は最寄りの入国管理局で学生ビザが切れる前に手続きをします。

<カナダ>

通常、カナダ入国の日から6ヵ月。延長には期限終了の少なくとも5週間前に滞在延期を申請する必要があります。

<ニュージーランド>

プログラム終了後、3週間。延長は最寄りの入国管理局で学生ビザが切れる前に手続きをしま

す。

<アメリカ>

プログラム終了後、60日。それ以上滞在する場合は最寄りの入国管理局で延長手続きが必要となります。

<イギリス>

最長の滞在期間は6ヶ月で、入国前に学生ビザを入手していない限り、それ以上の延長はできません。

＊なお、学生ビザを取得して入国した場合で、同じ大学で、あるいは別の大学で勉強を続けたい場合は、勉強を続ける大学にその旨を伝えれば、ビザの延長手続きを大学側がしてくれますので、ビザのことを心配する必要はありません。

(2) 研修前後の計画

本学では2年次前期は7月末に終了し、8月と9月が夏季休業期間、10月から2学期が始まり、その終了は翌年の2月となりますが、海外研修に参加する学生に関しては、海外研修先大学での1学期(秋学期)が終了した時点(遅くとも12月下旬)で2年次の学修は終了となります。そのため、本学キャンパスでは授業が続いているものの、海外研修参加学生については、1月から3月まで授業がありません。よって、8月から翌年3月末迄のおよそ8ヶ月間、学生は大学に戻ってくる必要はありません。各研修先大学のプログラムの開始時期により多少差はありますが、海外研修期間は約16週間ですので、学生には海外研修期間前後に3～4ヶ月間程、自由に行動が出来る時間が生じることになります。

学生によっては、海外研修プログラム直前に日本を立ち、プログラム終了後すぐに帰国する者もいれば、海外に出来る限り長く滞在するべく計画を立てる者もいるなど、その計画は様々です。もし、経済的・時間的都合がつけば、出来る限り海外から多くのものを得てきてほしいと願っています。その際時間の使い方はいろいろあると思いますが、以下は過去の学生達が体験してきた事例です。参考までに記します。

- 同一の大学で英語の勉強を続ける。
- 他の大学のプログラムに移って英語の勉強を続ける。
- 許可を得て大学の授業に参加(聴講)する。
- ボランティア活動に参加する。
- 学問的に自分の視野を広げられるようなツアー等に参加する。
- 研修先の国で旅行をする。
- 他国を旅行する。

これらに関する情報、その他必要なアドバイスはグローバル教育センター長ができる限り提供しますので、気軽に相談に来てください。

<重要>

MICの責任の及ぶ範囲は、あくまで「海外研修期間のみ」であり、そのプログラムの前後は学生個人の責任においての滞在となりますので、どんな計画を立てるにしても、学生は保護者とよく相談の上、責任を持って決定することが肝要となります。

(3) 自動車の運転

学生の海外研修中の自動車やバイク等の運転の是非は、保護者の判断に委ねざるを得ませんが、本学としては勧めません。研修中自動車等の運転を希望する場合は、研修出発前に、日本で国際

運転免許証を取得しておかなければなりません。研修先の国での運転は、その国や地域の状況を十分理解すると同時に、当然のことながらその国の交通法規を熟知しておかなければなりません。もし運転する場合は、もちろん飲酒運転は絶対に避け、国際的に有効な自動車保険に必ず加入した上で運転して下さい。ついでながら、レンタカー会社では車を借りる際、ほとんどの場合、大手のクレジットカードの提示を求められます。日本でクレジットカードを作っていく必要があります。

(4) 金銭について

<現地で銀行口座を開く>

現地の銀行で口座を開くと、お金の取扱いが簡単にできます。キャッシュカードも作成できるので、お店やレストランなどで現金が必要なときに ATM から現金を引き出すことができます。さらに、当座預金の口座を開くと個人の小切手帳を作成することができ、ホームステイ代など、手数料なし、あるいは安い手数料で支払うことができます。海外研修先のほとんどの大学では、オリエンテーション時に当座預金口座についての説明があります。

また、現地の銀行口座があると、速やかに安全に日本から送金ができます。都市銀行、地方銀行、また、ゆうちょ銀行からも送金ができます。

<送金方法>

a. 都市・地方銀行からの電信送金

送金の方法としては一番便利、かつ確実な方法といえますが、手数料が高額（1回 8000 円程度）なため、一度（1回）だけ多くの金額を送金する方法としては利用することを勧めますが、複数回の振込みとなれば、別の方法の方がいいと思われます。もちろん、日本から送金してもらうためには、現地の銀行で口座を開いておかなければなりません。アメリカの口座へ送金する場合を例にとると、特に問題がない限りは、送金は通常 2 日から 5 日で相手口座に届きます。

b. ゆうちょ銀行の国際送金

郵便貯金を取り扱うすべてのゆうちょ銀行（簡易郵便局を除きます）から世界各国に送金することができます。送金の方法には、受取人の住所に送金する方法（住所あて送金）と、受取人の銀行口座に送金する方法（口座あて送金）があります。住所あて送金の場合、一回の送金限度額は 7000 ドルとなっています（2017 年現在）が、口座あて送金の場合、限度額はありません。

（住所あて送金）

ゆうちょ銀行で送金金額と送金手数料を支払うと、郵便局が受取人の住所に為替証書を郵送します（国によって送金方法、手数料が異なりますので、各郵便局で確認してください）。受取人は現地の郵便局等でこの証書と引き換えに現金を受け取ります。送金人の支払いは、現金か、ゆうちょ銀行の口座からの引き落としとなります。送金にかかる日数は、5～12 日です。

（口座あて送金）

ゆうちょ銀行で送金金額と送金手数料（2500 円程度）を支払うと、外国の受取人の銀行口座へ直接送金・入金されます。送金人の支払いは、現金か、ゆうちょ銀行の口座からの引き落としとなります。送金にかかる日数は、4 日～6 日です。

詳しくは株式会社ゆうちょ銀行の HP（送金・支払い・海外関連）をご覧ください。

http://www.jp-bank.japanpost.jp/kojin/sokin/kj_sk_index.html

c. 海外専用プリペイドカードを利用した送金

代表的なものとして、マスターカードプリペイドマネージメントサービシーズジャパン（株）が発行する「キャッシュパスポート」というカードがあります。通常のバンクカードのように、

日本で作った自分の口座に入っている金額相当分を海外の ATM で引き出すことができます。口座は東京にあるため、国内送金で入金された金額は、その翌日には海外で引き落とし（利用）できるというメリットがあります。また、マスターカードプリペイドマネージメントサービスズジャパン（株）は Master Card が 100% 出資した会社であるため、カードは Master Card 機能を持ち、デビットカードとして買い物に利用することもできます。本学の学生はほぼ全員がこのキャッシュパスポートを作って海外での出費をまかなっています。

いずれにしても、巨額の現金を持ち歩くべきではありません。出発前のミーティングでも指導されますが、学生は現金を持ち歩く際には十分注意する習慣を身につけるようにしましょう。

<カード類等について>

前述したように、海外では多額の現金を持ち歩くのは避けるべきです。現金の代わりとして、クレジットカード／キャッシュパスポート／キャッシュカード（現地銀行発行）等のカード類やパーソナルチェック（現地銀行発行）を携行することを勧めます。特に数ヶ国を旅行する学生にとっては、クレジットカードやキャッシュパスポートは絶対に必要です。

（クレジットカードについて）

クレジットカードの一番のメリットは、現金を持ち歩かなくていいということです。日本では買い物はまだ現金で支払いをすることが多いですが、外国はカード社会で、特に欧米では、社会の隅々にクレジットカードが浸透し、ちょっとした買い物にもカードを使用します。また、クレジットカードは身分証明書（ID）の代わりにもなります。しかし、カードでばかり買い物をしていと、どうしても金銭感覚が麻痺します。計画的に使うよう心がけて欲しいものです。カードの種類としては、VISA カードが最も利用度が高く、次に MASTER カードとなります。どちらも大きな違いはありませんが、間違いなく、インターナショナルカード(海外で使えるもの)であることを確認し、取得して下さい。なお、キャッシュパスポートは ID の役割は果たしませんが、前述したように、MASTER カードとして利用できます。

9. 海外研修事前指導セミナーについて

学生は以下の内容に関する海外研修事前指導セミナーに出席することが義務づけられています。具体的な日時、場所はその都度電子メールで連絡されますので、学生はメールには十分注意を払い、指示に従って下さい。

- ① 研修申込み（研修先別）について
- ② ホームステイ申込み（研修先別）について
- ③ 学生 VISA 申請（国別）について
- ④ 渡航計画（航空券購入、ルート、接続等について HIS による説明会）について
- ⑤ 海外留学保険（東京海上日動火災による説明会）
- ⑥ 海外生活における安全、生活、銀行手続等（注意事項、緊急事態への対応、研修先での医療機関の利用、送金手続、通貨、トラベラーズチェック、現金及びクレジットカードの所持、その他）について
- ⑦ 宿泊施設（ホームステイ、ホテル等）について
- ⑧ ポートフォリオの作成について
- ⑨ 英語力の向上について
- ⑩ 出発準備（現地の気候、到着後の入国手続、空港送迎、現地での支払い、学生了解書等）について

<各研修先でのオリエンテーションについて>

各大学では、プログラムの開始前に独自のオリエンテーションが行われます。そこで英語プログラムの内容から大学および大学所在地の案内、その他生活に関する様々な情報が提供されます。但し、大学によっては、これらの情報の詳細については書面のみで伝えられる場合もありますので、受け取った印刷物は全てよく目を通しておく必要があります。

(主な内容)

- a. 安全、セキュリティ対策・サービス
- b. 緊急時の対応、医療面の情報、学生の健康
- c. 交通手段
- d. ホームステイ
- e. 口座の開設、キャッシュカードの利用方法
- f. 電話、テレホンカード、長距離通話
- g. 個人の必需品、衣類の店
- h. 大学施設の利用方法（スポーツ施設、図書館、書店、カフェテリア等）
- i. 大学所在地の特色および魅力
- j. 旅行と学生活動
- k. 授業、試験等についてのオリエンテーション

能力に合ったクラスに学生を入れるため、ほとんどの大学でオリエンテーション時に英語力判定テスト（Placement Test）が行われます。大学の授業については、別途オリエンテーションが行われます。以下はそこで話される内容の一部の例です。

- 1) アドバイザー、教員、プログラムディレクター、それぞれの役割
- 2) クラス分け、時間割、担当教員、授業教室
- 3) コースの選択
- 4) 履修科目の決定
- 5) テストスケジュール
- 6) E-mail（電子メール）とコンピュータの利用方法
- 7) Listening/Learning Lab 等の学習施設について

10. 宿泊施設について

宿泊施設は、ビクトリア大学のみ夏季が寮、秋季がホームステイとなる以外は、すべてホームステイとなります。ホストファミリーの手配は、研修先大学（10大学）が自らのハウジングセクションで行うか、大学（5大学）が推薦するホストファミリー紹介会社に本学が依頼して手配してもらうかのどちらかになります。ホストファミリーの選択は、ホームステイプログラムへの申込書等に必要事項とともに希望・要望等を書くことはできますが、その決定はそれらの情報を総合して、大学側、もしくはホストファミリー斡旋会社が行い、本学か、もしくは学生に直接その情報が提供されます。その情報が知られるタイミングはまちまちであり、どんなに早くても出国1ヵ月前、一番遅い大学では、現地に着いてから紹介されるというところもあります。

ホストファミリーの変更は、どうしても必要であると判断された場合、その理由に正当性があると判断された場合にのみ可能となります。単なるカルチャーショック、好み、利便性等、本人の利己的な理由に起因すると判断された場合には、変更はまずできません。変更を考えるに相当すると思える事情があった場合は、まずその相談を大学側のハウジング担当者、もしくは、ホームステイ斡旋会社の担当者に相談してください。もちろん、どうしてもいい判断がつかない場合は、グローバル教育センター長に連絡・相談してください。

なお、本学の海外研修期間中は、本学と研修先大学の双方が認めた宿泊施設（基本はホームステイ）のみが宿泊施設となり、自分で見つけたアパートやシェアハウス（一軒家を共同で借りる）

等の利用はできません。これに反し、独断で住居を変更した場合には、本学、研修先大学とも学生の宿泊施設、基本的生活に関わるいかなる責任も負えないことになりますので、結果、学生の海外研修許可を取り消し、履修登録を無効にします（単位の認定を行いません）。

また、危機管理、緊急連絡の必要上、学生は、海外研修期間中は各自の連絡先を常に本学と研修先大学に知らせておくことが義務付けられます。

＜ホームステイに関する留意事項＞

前述の通り、研修先大学によって、どの家庭にホームステイするかの連絡時期が大きく異なります。ホームステイに入る1ヶ月前に連絡が来るところもあれば、研修先に着いてからでなければわからないところもあります（カナダのニューブランズウィック大学は常にそうなります）。事前に知らされた場合は、出発前に電子メール等で連絡を取り、自己紹介をしておきましょう。

1) ホームステイの利点と欠点

海外のホストファミリーは、必ずしも「父親、専業主婦の母と2人の子供」といった、一般的に理想的と言われるような家族構成の家族ではありません。むしろ、そうでない方が一般的です。定年退職した老夫婦、子供のいるシングルマザー（あるいはファザー）、多忙な社会人の一人暮らしの家庭、あるいは、学生とほぼ同年代の既婚学生のカップル、という場合もあるかもしれません。また、大学から少し離れた地域にある家庭や、どちらかというと交通の便が悪い地域にある家庭もたまにあります。さらに、仕事や学校、スポーツクラブ等で忙しい家庭もあり、このような家庭では、子供でさえいつも家にいるとは限らず、コミュニケーションをしたくても出来ない場合もあります。さらに、その国の国籍は持っているものの、人種的には東洋系であったり、南米系であったりと、いわゆる、「純粋な」アメリカ人、カナダ人等ではない場合も多々あります。海外（特にアメリカ）は多文化共生社会なので、我々日本人が思い描くような家庭ではない場合の方が多いことを十分理解しておく必要があります。

大学側、あるいは、ホストファミリー斡旋会社は、そのような家庭の事情を熟知しており、出来る限り学生の希望とホストファミリーの希望が合うような家庭を見つけるよう努力します。多くの家庭は異文化に興味を持っているがゆえにホストファミリーになっていますが、場合によっては、家計の一助とするべくホストファミリーになっているところもあります。しかし、そのような家庭でもホストファミリーとしての責任は十分に理解していますので、基本的には問題はありません。仮にその責任を果たさないようなホストファミリーであった場合には、大学側、あるいは、会社側がその対応をします。学生とも相談・協議を重ねた結果、問題が解決しないと判断された場合は、ホストファミリーの変更が行われます。

ホームステイに入る際は、理想的ホストファミリーの「夢」にとらわれず、自分が置かれた状況をよく理解した上で現実的に物事を見つめ、ホストファミリーとの人間関係作りを積極的に行うことで、ホームステイの経験を極力有意義なものにしてほしいと思います。他人の家に滞在する、ましてや言葉と文化が大きく違う国の人たちと一緒に暮らすわけですから、始めはストレスも大きく、誰しも大変さを感じるものです。しかし、それを乗り越えると、日本では決して得られない、かけがえのない体験ができたという満足感が生まれます。これまで海外研修に行った学生たちは、皆そのような感慨を持って帰国しています。有意義なホームステイ体験を一日でも早く実現する。そのためには、頭（知識）と心の準備を十分しておくことが肝要となります。

なぜ、ホームステイなのか。その理由としては以下のようなものを挙げることができます。

- a. 海外研修の国における日常生活を学ぶ最良の方法である。
- b. ただ訪問するだけでは経験出来ない、多くの活動に参加することが出来る。
- c. 新しい文化に順応するのが難しいと感じた場合、相談相手になってくれる人たちがいる。
- d. 生涯の良き友人を作る機会がある。

2) ホストファミリーでの食事

ほとんどの場合、ホストファミリーとの契約では、原則、毎日朝食と夕食の2食が提供されることになっています。ただし、夕食は作ってくれますが、朝食はその家にあるものを使って自分で用意する場合がよくあります。これは、朝食についてはどの家庭も仕事等の関係で忙しく、家族がいつも一緒に食べる習慣がない場合が多いからです。その場合は、自分で勝手に冷蔵庫を開けて朝食を用意してもまったく問題はありません。家庭は食材を提供する義務があることを十分理解していますので、問題は無いのです。昼食は、ほとんどの場合、大学で自分で購入して食べます。ホストファミリーでの食事については、自分の好き嫌い、あるいは、YES/NOをはっきり相手に伝えることが重要です。自分の好みをはっきり告げ、欲しいものは欲しい、いらないものはいらないといった、はっきりした態度を示すことが大事で、余計な遠慮はかえってホストファミリーにとって負担となります。ホストファミリーの習慣をよく観察して、また、積極的に質問して、一日も早く「家族の一員として」、できるだけ自然な行動を取るよう心がけましょう。

3) 通学等

ホームステイ中、家庭によっては、朝、大学に送ってくれるところもあります（少数派です）が、そうでない場合は、バスか電車、あるいは自転車を利用することになります。ホームステイ先は、研修先大学、あるいはホストファミリー斡旋会社が交通の便を考えて選んでいますので、その点は大きな問題はないはずです。しかし、研修先によっては、現地の公共交通機関の少なさに驚くかもしれません。カナダ、オーストラリア、アメリカでは、自家用車への依存度が高く、車を持たない学生は、出来るだけ快適な学生生活を送るべく、車を所有している学生を仲間にして利便性を高めています。

4) 問題の対処

前述したように、妥当な理由があればホームステイ先を変えることは出来ます。しかしその場合、何が問題かをしっかり認識・確認し、それを関係者に知らせる必要があります。そのような事態が起こった場合は、必ず以下の行動を取ってください。

- 1) まず、何が問題かをしっかり把握すること。気に入らない事、満足出来ない事、居心地が悪いこと等を文章にする。
- 2) 次に、その問題、悩み事を話しやすい誰かに説明し、聞いてもらうこと。その人がホストマザーの場合もあるし、ハウスメイト（同居している留学生）、授業の先生、アカデミックアドバイザー、サイトメンターの場合もあるかもしれません。
- 3) 次に、研修先大学がホストファミリーの紹介をしている場合には、大学のハウジング（住居）担当者に（各センターには必ずハウジング担当者がいます）、また、会社が紹介している場合は MIC 担当者に直接連絡して、その状況をはっきりと説明し、その問題の解決を依頼します。もし、その状況を改善するのに良い考えがあるようであれば提案してください。その際、その問題がその地域の習慣に起因するかどうか尋ねることを忘れないでください。その地域の習慣を理解していない自分自身に問題がある場合もあり得ます。
- 4) その後依然として問題が解決されていないと思った場合は、大学の英語プログラムのディレクター、あるいはコーディネーター等の管理責任者の所に行き、自分が MIC の学生であり、手助けが必要であることを伝え、その問題を再度説明の上、解決を依頼します。
- 5) それでも解決しない場合は、グローバル教育センター長に Sky メール (nnishimu@sky.miyazaki-mic.ac.jp)、Line や電話等を使って、その問題について知らせ、助けを求めてください。

***上記の手順は、3)を除けば、海外研修中の他の様々な問題への対処方法ともなりますので、しっかり理解しておいてください。**

1 1. カルチャーショックについて

海外研修を体験した学生の多くは、その程度の差こそあれ、それなりにカルチャーショックを受けるものです。これは自分の家を離れて異国で生活する者に共通する心理的反応といえます。ほとんどの人が次の4期を経るといわれます。

- ① 全ての新しいものに驚き、興味をもつ興奮期
- ② 新しいもの、異質なものに苛立ち、退屈を感じたり、なじみのあるもの、心地よいものの方に戻りたいと思う不満期
- ③ 新しい物にもはや圧倒されることなく、古い物は、もはや必要としない適応期
- ④ 自分の家に帰り、固有の文化に戻った時、昔から慣れ親しんだものが、もはや自分に合わなくなっていることを発見してショックを受ける再入国期。この時期、友人や家族が自分のしてきた経験にあまり興味を示していないと感じたり、理解していないと思える。

保護者の方は、海外に出た学生とのやりとりを通じて、彼らが強いカルチャーショックを受けていると気づかれることがあると思います。しかし、ご安心下さい。このカルチャーショックは全く正常な反応であり、時間と共に解決される問題なのです。最初の1ヶ月が最も困難な時期です。学生は新しい文化の中でどのように問題を解決したらよいのか、その方法をまだ学んでいません。しかし、各国の大学の教職員は、長年にわたりカルチャーショックに陥った学生の手助けをした経験を持っています。また、学生は本学を出発する前に十分問題解決の方法について学んでいるはずです。問題を解決してくれる適任者を見つけ、その人に何が問題で、何を解決すれば楽になるのかを話すことで、カルチャーショックを乗り切ることができます。

保護者の方は学生から、自分がいかに不幸なのかを切々と語る、多分に絶望的にさえ聞こえる電話を受け、ショックを受けられることがしばしばあります。しかし、学生はその数時間後には友人と会って買い物に出かけたり、あるいは何らかの手助けを得たりしたことにより、家で心配している家族のことはすっかり忘れ、晴れ晴れとした気持ちで過ごしていることもよくあることです。

しかし、何度か学生と連絡を取り、問題が深刻であると思われた場合は、本学にご連絡下さい。我々も研修先大学の担当者と電子メール、電話、Skype 等を使って連絡を取り、最善の方法を見だし、最大限、早期の問題解決に努力します。

<海外研修を終えた学生からのアドバイス>

『見知らぬ国に住み、味わったことのない食事を食べるのは一種のカルチャーショックでした。学生の中には随分苦労している人もいました。中にはつらくて、家に帰りたと思っていた者もいました。でもこのように感じたら、皆さんは部屋に閉じこもらずに、外に出て、人々と出会って下さい。様々な活動に参加しましょう。買い物に出かけるのもいいでしょう。そうすれば、すぐに生活は快適になってきます。友達も出来ますよ。私達もそうして成功したんです。

もう少しアドバイスをすると、日本米、日本茶、お気に入りの食べ物を持って行って下さい。大好きななじみの食べ物がカルチャーショックを忘れられる一時を提供してくれます。ただし、それはたまにはいいけど、毎日は駄目ですよ。

最後に、その土地の食べ物に気が進まなければ、ピザやケンタッキーフライドチキンを利用してみて下さい。そういう食べ物はどこにでもあります。それらもつらさを忘れさせてくれるかもしれません。』

1 2. 起こりうる典型的問題と不満について

学生が新しい国での生活や勉学に入ると出てくる、典型的な問題あるいは不満を以下に記します。これらの多くは決して特別なものではなく、学生は時間の経過とともに消化し、ある時期がくると全く問題として認識なくなり、当然のことのよう順応していく性質のものがほとんど

です。もちろん、どうしても我慢出来ないものについては何らかの対処が必要であることは言うまでもありません。

- ホストファミリーが気に入らない—交通の便が悪い。大学、ショッピングセンター等から遠すぎる。騒々しい。プライバシーがない。家族のだれとも話さない。バスルームに慣れない。食事は配膳されず、自分でするように言われた。習慣に慣れず孤独である。
- ハウスメイトが気に入らない—うるさい。寝ない。いつも寝ている。友好的でない。
- 町や授業が退屈で気に入らない。
- 食物に嫌気がさす—日本米でないので、飯がまずい。何も食べたくない。太ってくる。
- 大学の授業が気に入らない—簡単すぎる。きつすぎる。日本人が多い。ネイティブの学生と話す機会を作るのが難しい。友人を作るのが難しい。
- 日本人が気に入らない—他の日本人は英語を話そうとしない。親切でもない。異文化に対する理解が欠けているので他の学生を困惑させる。日本人学生が日本人のグループに入らなければ腹を立てる。日本人のくせにやたらと英語を話したがる。外国人を友人に持ちたがる。
- 自由研究が難しすぎる—一題材が思いつかない。題材を絞りこめない。インタビューするのが恐い。すべての課題をする時間的余裕がない。

保護者の皆さんは、最初の1ヶ月が過ぎると、これらの不満のほとんどが解消されたことを知り、安心されることでしょう。一つの問題を解決出来ると学生は次の問題も解決できるようになり、そしてそうしていくことが毎日の生活の一部となるのです。

ある時学生が本学に送ってきた海外研修レポートのうちの9割に、海外にもっと長くいたい、本学に、あるいは日本に帰りたくない、友人と別れるのが悲しい、食習慣になったフィッシュ・アンド・チップス（イギリスの代表的な食べ物）などが食べられなくなるのが悲しい、といった意見がみられました。このような他国の環境に成功裏に順応することは、海外研修体験の重要な要素の一つです。これらの経験は成長への重要なステップであり、今後の人生の飛躍への貴重な準備といえます。

1 3. 学内研修について

経済的理由、健康上の問題等本学がやむを得ない理由と認めた場合に限り、学内での研修が可能となります。学内研修を希望する場合は、海外研修センターで所定の書類（学内研修願）をもらい、その理由を明記のうえ、2018年4月13日（金）までにグローバル教育センター長へ提出してください。その後、必要があれば理由の確認等の目的で面談が行われ、学部長によって最終決定がなされます。

本学としては、海外において最低15週間～17週間を過ごすことになる海外研修期間を問題なく終わらせるために障害となる可能性のある慢性的疾患を持っている学生に対しては、この学内研修という選択肢を強く勧めます。また、英語力に大きな問題があると判断された学生に対しては、学内研修を課す場合があります。

1 4. グローバル教育センター長と保護者のミーティングについて

（1）三者面談

学生にとって海外研修は大事業であり、それを成し遂げるための計画・準備の指導・お手伝いをするのがグローバル教育センターの役割です。

保護者の方には海外研修に関してご質問やご心配等がおありの際は、いつでも気軽にグローバル教育センター長までご連絡ください。必要があれば面談の予約もいたします。電話番号は以下の通りです。

グローバル教育センター長・学長補佐：西村直樹
電話番号：(0985) 85-5931 (代)
月曜日～金曜日：午前9時～午後5時

(2) 保護者説明会

前述の通り、第2回目となる海外研修説明会は、2018年4月8日(日)午後1時から行う予定です。説明会前後に個別面談ができますので、ご希望の際は事前にご連絡ください。

15. 緊急連絡先について

グローバル教育センター長・学長補佐：西村直樹
Eメール：nnishimu@sky.miyazaki-mic.ac.jp
緊急電話(個人)：_____(自宅)_____(携帯)
Skype: _____
Line: _____

総務課長・学部長補佐：ロイド・ウォーカー
Eメール：lwalker@sky.miyazaki-mic.ac.jp
緊急電話(個人)：_____(自宅)_____(携帯)
Skype: _____
Line: _____

16. 海外研修単位取得に係るガイドライン

海外研修科目（SA201、SA202、SA203）の単位取得にあたっては、学生は受講する全科目をパスするとともに、完成した全ての提出物を締切日までに研修先の本学担当教員に提出しなければならない。その具体的提出締切り期限については、各研修先英語プログラム担当者より連絡される。なお、海外研修に行く前の2018年1月にTOEIC試験、そして、海外研修後の2019年4月にもTOEIC試験を受験することが義務づけられている。帰国後TOEIC試験を受けなければ、海外研修単位は認定されない。

<ポートフォリオ（諸課題集）について>

一学期間、学生は研修先で本学担当教員と定期的に会い、ここに記される提出物の進行状況について話し合う。また、学生は同提出物の進行状況を、適宜グローバル教育センター長に電子メールにより連絡するものとする。なお、提出物は以下の4つのセクションを含まねばならない。

(ア) 英語セクション (SA201)

(イ) 自由研究セクション (SA202)

(ウ) 地域研究セクション1 (SA203)

(エ) 地域研究セクション2 (SA203)

* (ウ) と (エ) は地域研修セクションとして一つになっていても問題ない。

(1) 英語セクション：最低10ページ (3,750 ワード)

該当科目（単位）：SA201 英語（6単位）

ポートフォリオの英語セクションには、英語の授業で提出した課題から最も出来の良かった作品の幾つかを選び、入れるものとする。このセクションは少なくとも10ページ (3,750 ワード) 以上の文章を含むものとする。ワークシート、ボキャブラリーやイディオム等のリストの流用ではなく、自分自身が作成したオリジナルのもののみがカウントされる。やむを得ずワークシートやリスト類を含めた場合は、その部分は1ページを半ページに数えるものとする。受講した授業はその担当教員によって評価される。宮崎国際大学の単位取得のためには、受講した全ての授業をパスしなければならない。

(2) 自由研究セクション：最低10ページ (3,750 ワード)

該当科目（単位）：SA202 自由研究（2単位）

学生は研修先の国、地域、文化に関わるテーマを自ら設定し、地域社会、コミュニティに直接働きかけることによってそのテーマを追求し、自らの研究論文として仕上げる。そのテーマの選択にあたっては、自身の興味を反映するとともに、地域に自分自身を積極的に関与させるものであることが望ましい。そのため、図書館、インターネットを使つての情報収集に留まらず、聞き取り調査、観察、アンケートの実施等を行い、それらを分析することで実態を理解し、その後、自らの意見をもってそれなりの結論を導き出すよう努力することが求められる。Independent Study（自由研究）の論文を作成するに当たっての注意点・留意点は以下の通りである。

- ①自らの研究テーマがあつての研究であるので、現地で何かに興味がわいたからといって、ただ単にそれについて情報を集めてまとめただけでは研究論文としては不適切である。
- ②研究テーマを日本、日本文化・慣習、日本人的発想（自分の考えを含む）との比較において立てることが重要である。そうすることにより、前提として考えること、書く事が自ずと出現し、研究の意義が深まるとともに、作成が容易となる。
- ③写真、イラスト等は枚数（必要分量）とは認められない。あくまで自ら書いた文章量が枚数の判断基準となる。

地域の情報を知る、インタビューする相手を見つける、その約束を取る、研究のためにボランティア活動が出来る適切な場所を見つける、あるいは、その他研究に関するアドバイスが必要な場合は、研修先の本学担当教員（サイトメンター）に相談すること。また、研究の進捗については、サイトメンターが把握できるように、適宜連絡しておくこと。グローバル教育センター長のアドバイスが必要な場合は、Sky メールや Line を使って相談すること。

（３）地域研究セッション１＆２（必ずしも分かれている必要はない）

該当科目（単位）：SA203 地域研究（６単位） 各最低１０ページ（3,750ワード）
合計 ２０ページ（7,500ワード）

基本的には自らが書いたエッセーやレポート等によって構成される。その内容は多岐に渡って構わないが、原則として海外（滞在先等）で体験したこと、気づいた文化的違い、現地の様子、文化の異なる人々との触れ合い等、海外の諸地域に行かなければ知り得なかった事柄についてのエッセー、あるいはレポートとなること。その材料となる活動としては以下のようなものが挙げられる。

- 地域でのボランティア活動への参加
- 講演会への出席
- 本学指定以外の研修先大学正規開講クラスへの参加（聴講）
- 大学の生涯教育課あるいは地域のコミュニティセンター主催の授業への参加
- 地域の文化的あるいは歴史的場所・施設、地域住民の会合、教会、美術館・博物館、学校、諸奉仕団体、等々の訪問

また、英語の授業（英作文の授業等）の中で書いた、社会や文化に関するエッセーやレポートを含んでも構わないが、English Section とはその内容が異なることに留意すること。その他、自らの海外体験に関連した未公開の日誌なども使うことができる。

以下はトピックの例である。

- 新しい町における交通手段
- 短い日帰り旅行の旅日記
- 海外生活に対する個人的感想
- 研修国での英字新聞に出た日本に関する記事を読んで
- 自分の感想、意見、アドバイスなどを含む海外研修最終レポート

（大学の正規授業を受講する場合）

いくつかのサイトでは、学生の英語力が高い場合、１つもしくはそれ以上の正規授業を履修することができるが、その場合、その受講は「地域研究」該当科目とする。但し、授業はリベラルアーツ科目（人文科学、社会科学及び地域研究関連科目）でなければならないため、希望するコースが取れるかどうかは事前に本学に確認し、了承を得なければならない。提出物には、授業で提出したエッセー、授業での配布物（クラス・ノート）、学内あるいは学外活動の報告書を含む。授業のシラバスや課題のリスト、ポキャブラリーリスト等の他に、少なくとも１０ページ以上の自らが作成した（書いた）文章を含んでいなければならない。授業の課題、その他の評価は授業担当教員がおこなう。なお、本学の単位取得のためには、その受講したコースをパスしなければならない。聴講生であって、正規学生として授業を受けていない場合は、そこでの課題その他の評価は本学の現地担当教員が行い、その学習の進行状況は適宜グローバル教育センター長に報告されることとなる。

※ 本学の単位として認められない科目としては、数学、コンピューター技術・科学、会計学や簿記等の経営学系統科目等がある。TOEFL や TOEIC の英語試験対策コース等を履修できることもあるが、これらの科目で取り扱った内容（宿題やハンドアウト）についてはポートフォリオの一部としてはカウントされない。

<重要事項>

- 1) 他人の書いたものを流用する剽窃（ひょうせつ）行為はポートフォリオの中のいかなる部分においても許されない。盗用であることがわかった個所は書き直しとなり、その程度が悪質と判断された場合には、その単位の取得が認められない場合もある。
- 2) 本学の単位取得のためには、海外研修前後に TOEIC を受験すること、自らのポートフォリオを期限までに完成すること、そして、履修した科目（コース）を全てパスすることが要求される。
- 3) ポートフォリオは Mahara 上の ePortfolio に各自でアップロードすること。その際、各トピックの文章はワードカウントをした上で、そのワード数を記入すること。各提出物は 1 ページ＝375 ワードとして計算される。そのため、写真がページの一部になることはないが、データやグラフ等、自らが作成していない外部の情報等も必要ページ数（ワード数）には含まれないことを留意すること。
- 4) ポートフォリオの提出期限は、各研修先大学のサイトメンターの指示に従うものとする。通常、ポートフォリオの評価及び海外研修単位（14 単位）の認定（P（Pass）あるいは F（Fail））は、海外研修参加年度の 1 月末から 2 月始めにかけて行われる。特別な事情（健康上の問題等）がない限り、海外研修の単位認定が 3 年次に行われることはない。
- 5) 海外研修単位（卒業必修単位）を落とした場合（研修先大学の履修科目で不可（F）を取る、あるいは、ポートフォリオを期限までに提出しない等の理由による）は、3 年次の秋学期に「海外研修」の学内研修プログラムの履修をもって、再度海外研修単位を取得する必要がある。
- 6) 海外研修後 3 年次開始までに TOEIC500 点、もしくは、TOEFLiBT 45 点を取得していない場合は、留年となり、3 年次に進級できない。

II. 参考資料－ 1

1. 在日公館リスト

アメリカ合衆国大使館 Embassy of the United States of America

〈東京〉 〒107-8420 東京都港区赤坂 1-10-5 TEL : 03-3224-5000
(Tokyo) 107-8420 Tokyo-to, Minato-ku, Akasaka 1-10-5

アメリカ合衆国総領事館 Consulates General of the United States of America

〈大阪、神戸〉 〒530-0047 大阪市北区西天満 2-11-5 TEL : 06-6315-5900
(Osaka, Kobe) 530-0047 Osaka-shi, Kita-ku, Nishitenma 2-11-5

アメリカ合衆国領事館 Consulates of the United States of America

〈那覇〉 〒901-2101 浦添市西原 2564 TEL : 098-876-4211
(Naha) 901-2101 Urasoe-shi, Nishihara 2564

〈福岡〉 〒810-0052 福岡市中央区大濠 2-5-26 TEL : 092-751-9331
(Fukuoka) 810-0052 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Ohori 2-5-26

〈名古屋〉 〒460-0003 名古屋市中区錦 3-10-33 錦 SIS ビル 6 階 TEL : 052-203-4011
(Nagoya) 460-0003 Nagoya-shi, Naka-ku, Nishiki 3-10-33, SIS 6th Floor

〈札幌〉 〒064-0821 札幌市中央区北一条西 28 TEL : 011-641-1115
(Sapporo) 064-0821 Sapporo-shi, Chuo-ku, Ichijo-nishi 28

英国 (イギリス) 大使館 Embassy of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland

〈東京〉 〒102-8381 東京都千代田区一番町 1 TEL : 03-5211-1100
(Tokyo) 102-8381 Tokyo-to, Chiyoda-ku, Ichiban-cho 1

連合王国総領事館 Consulate General of the United Kingdom

〈大阪〉 〒541-0059 大阪府中央区博労町 3-5-1 セイコー大阪ビル 1 9 階
TEL : 06-6120-5600
(Osaka) 541-0059 Osaka-shi, Chuo-ku, Bakuromachi 3-5-1, Seiko Osaka Bldg. 19th fl.

連合王国名誉領事館 Honorary Consulates of the United Kingdom

〈福岡〉 〒812-0011 福岡市博多区駅前 1-3-6 西日本銀行内 TEL : 092-476-2525
(Fukuoka) 812-0011 Fukuoka-shi, Hakata-ku, Eki-mae 1-3-6, Nishi Nippon Bank Bldg.

〈広島〉 〒730-0031 広島市中区紙屋町 1-3-8 広島銀行内 TEL : 082-247-5151
(Hiroshima) 730-0031 Hiroshima-shi, Naka-ku, Kamiya-cho 1-3-8, Hiroshima Bank Bldg.

オーストラリア大使館 Embassy of Australia

〈東京〉 〒108-8361 東京都港区三田 2-1-14 TEL : 03-5232-4111
(Tokyo) 108-8361 Tokyo-to, Minato-ku, Mita 2-1-14

オーストラリア総領事館 Consulate General of Australia

〈大阪〉 〒540-0001 大阪府中央区城見 2-1-61 ツイン 21M I D タワー 2 9 階
TEL : 06-6941-9882
(Osaka) 540-0001 Osaka-shi, Chuo-ku, Shiromi 2-1-61 Twin 21 MID Tower 29th fl.

オーストラリア領事館 Consulates of Australia

〈福岡〉 〒810-0042 福岡市中央区赤坂 1-1-5 ツルタケヤキビル 7 階
TEL : 092-734-5055
(Fukuoka) 810-0042 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Akasaka

カナダ大使館 Embassy of Canada

〈東京〉 〒107-8503 東京都港区赤坂 7-3-38 TEL : 03-5412-6200
(Tokyo) 107-8503 Tokyo-to, Minato-ku, Akasaka 7-3-38

カナダ総領事館 Consulate General of Canada

〈大阪〉 〒542-0086 大阪府中央区西心斎橋 2-2-3 第3松豊ビル 1 2 階
TEL : 06-6212-4910
(Osaka) 542-0086 Osaka-shi, Chuo-ku, Nishi-shinsai-bashi 2-2-3, #3 Matsutoyo Bldg. 12th fl.

カナダ領事館 Consulates of Canada

〈福岡〉 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通り 4-8-28F.T.ビル 9 階
TEL : 092-752-6055
(Fukuoka) 810-0004 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Watanabe-dori 4-8-28 F.T. Bldg. 9th fl.
〈名古屋〉 〒460-0002 名古屋市中区丸の内 3-17-6 ナカトウ丸の内ビル 6 階
TEL : 052-972-0450
(Nagoya) 460-0002 Nagoya-shi, Naka-ku, Marunouchi 3-17-6 Nakato Marunouchi Bldg. 6th fl.

ニュージーランド大使館 Embassy of New Zealand

〈東京〉 〒150-0047 東京都渋谷区神山町 20-40 TEL : 03-3467-2271
(Tokyo) 150-0047 Tokyo-to, Shibuya-ku, Kamiyama-cho 20-40

ニュージーランド名誉領事館 Honorary Consulates of New Zealand

〈福岡〉 〒810-0041 福岡市中央区大名町 2-12-1 TEL : 092-751-4431
(Fukuoka) 810-0041 Fukuoka-shi, Chuo-ku, Daimyo-cho 2-12-1
〈大阪〉 〒540-0001 大阪府中央区城見 2-1-61 ツイン 2 1 MID タワー 28 階
TEL : 06-6942-9016
(Osaka) 540-0001 Osaka-shi, Chuo-ku, Shiromi 2-1-61 Twin 21 MID Tower 28th fl.
〈名古屋〉 〒454-0802 名古屋市中川区福住町 2-26 リンナイ (株) 内
TEL : 052-361-8257
(Nagoya) 454-0802 Nagoya-shi, Nakagawa-ku, Fukuzumi-cho 2-26 Rinnai Co. Bldg.
〈苫小牧〉 〒053-0012 苫小牧市汐見町 3-1-31 松井コンクリート (株) 内
TEL : 0144-35-1121
(Tomakomai) 053-0012 Tomakomai-shi, Shiomi-cho 3-1-31, Matsui Concrete Co. Bldg.

2. 在外公館リスト

在アメリカ日本大使館・総領事館 (U.S.A.)

在サンフランシスコ総領事館

San Francisco

Consulate-General of Japan

50 Fremont Street, Suite 2300, San Francisco, California 94105, U.S.A.

Tel: (1-415) 777-3533

Fax: (1-415) 974-3660

<http://www.cgjsf.org/indexj.htm>

在ロサンゼルス総領事館

Los Angeles

Consulate-General of Japan

350 South Grand Avenue, Suite 1700, Los Angeles, California 90071, U.S.A.

Tel: (1-213) 617-6700

Fax: (1-213) 617-6727

<http://www.la.us.emb-japan.go.jp/>

在カナダ日本大使館・総領事館 (Canada)

在カナダ大使館

Canada

Embassy of Japan

255 Sussex Drive, Ottawa, Ontario K1N 9E6, Canada

Tel: (1-613) 241-8541

Fax: (1-613) 241-2232

<http://www.ca.emb-japan.go.jp/>

在バンクーバー総領事館

Vancouver

Consulate-General of Japan

800-1177 West Hastings Street, Vancouver, B.C., V6E 2K9, Canada

Tel: (1-604) 684-5868

Fax: (1-604) 684-6939

http://www.vancouver.ca.emb-japan.go.jp/jpn/jpn_index.html

在トロント総領事館

Toronto

Consulate-General of Japan

Suite 3300, Royal Trust Tower, 77 King St. W., Toronto, Ontario, M5K 1A1, Canada

(P.O. Box 10 Toronto-Dominion Centre)

Tel: (1-416) 363-7038

Fax: (1-416) 367-9392

<http://www.toronto.ca.emb-japan.go.jp/>

在オーストラリア・ニュージーランド日本大使館・総領事館 (AUS/NZ)

在シドニー総領事館

Sydney

Consulate-General of Japan

Level 34, Colonial Centre, 52 Martin Place, Sydney, N.S.W. 2000, Australia

(G.P.O. Box No. 4125, Sydney 2001)

Tel: (61-2) 9231-3455

Fax: (61-2) 9221-6157

<http://www.sydney.au.emb-japan.go.jp/>

在オークランド総領事館

Auckland

Consulate-General of Japan

Level 12, ASB Bank Centre, 135 Albert Street, , Auckland 1, New Zealand.

(P. O. Box 3959)

Tel: (64-9) 303-4106

Fax: (64-9) 377-7784

<http://www.nz.emb-japan.go.jp/auckland/>

在英国日本大使館・総領事館 (U.K.)

在英国大使館

United Kingdom (U.K.)

Embassy of Japan

101-104, Piccadilly, London, W1J 7JT, U.K.

Tel: (44-20) 7465-6500

Fax: (44-20) 7491-9348

<http://www.uk.emb-japan.go.jp/>

3. 荷物と郵送について

(1) 手荷物

飛行機と一緒に持っていける無料手荷物の許容量は航空会社やクラス区分によって異なります。許容量を超える場合は超過手荷物料金が必要です。

超過小荷物として同時に運ぶことも出来ますが、通関手続きや空港からの運搬を考慮すると、当面必要なもの以外は、郵便局や運送会社より別送したほうがよいでしょう。

正確な手荷物許容量や超過手荷物料金については、各航空会社に直接確認して下さい。

(2) 郵送

●郵便事業

郵便局から衣類や書籍を小包で送る場合、船便・航空便・SAL便（エコノミー航空小包）などの方法があります。詳しくは郵便事業株式会社のホームページで確認して下さい。

●運送会社の宅配便

船便・航空便とあり、国内の宅配便と同じ方法での配達が可能です。料金は各社ごとに異なります。船便で送れる荷物の重量は30kg、縦・横・高さの合計が1.5m以内、航空便は32kgまでです（最新の情報は各運送会社に確認してください）。

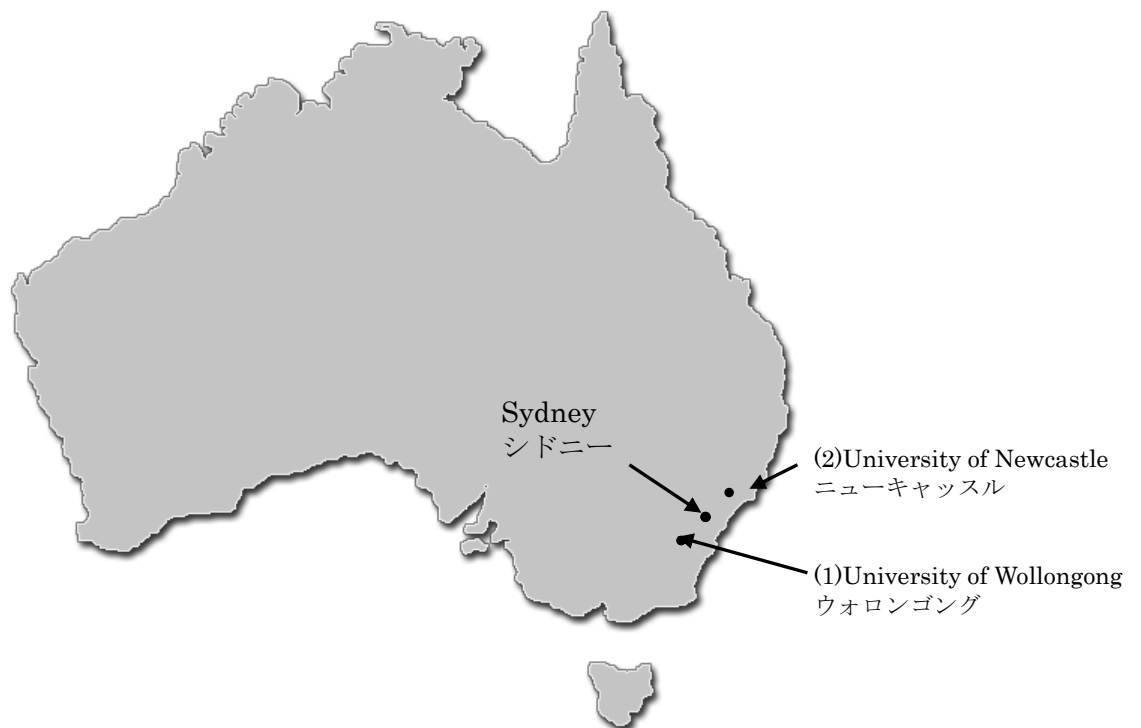
III. 参考資料－ 2

各研修先大学の紹介

	国別	海外研修大学	ページ
1	オーストラリア	ウォロンゴン大学	32
2		ニューキャッスル大学	33
3	ニュージーランド	ワイカト大学	34
4		オタゴ大学	35
5	カナダ	ビクトリア大学	37
6		サイモン・フレザー大学	38
7		フレザー・バレー大学	39
8		トンプソン・リバーズ大学	40
9		ニュー・ブランズウィック大学	41
10	アメリカ	ソノマ州立大学	42
11		サンノゼ州立大学	43
12		カリフォルニア州立大学サンマルコス校	44
13		サンディエゴ州立大学	45
14		アリゾナ州立大学	46
15	イギリス	カンタベリー・クライスト・チャーチ大学	48

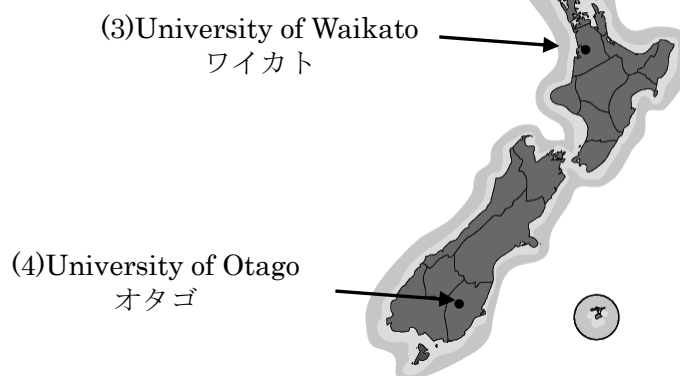
Australia

オーストラリア



New Zealand

ニュージーランド



1. ウォロンゴング大学 (University of Wollongong)

UOW College

Wollongong NSW 2500 Australia

Phone: 61-2-4252-8804 Fax: 61-2-4221-3233

Contact : Ms. Rebecca Dickinson, Study Tour Coordinator

(1) 紹介

ウォロンゴング市はオーストラリアで7番目に大きい都市で、シドニーの中心部から列車で南に1時間半の距離にある。「ウォロンゴング」とは「山と海の間」という意味で、大学は熱帯雨林に覆われた崖を見上げるなだらかな傾斜地にあり、美しい海岸から数分のところにある。幅広い英語プログラムが用意されており、言語と文化の優れた授業を提供している。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約12,000人 *年によって異なる。
- 語学研修生数 : 約250~350人 (日本人が12~15%) *年によって異なる。
- 必要TOEFL点数 : なし
- 研修に要する週数 : 15週~18週
- 週当たりの授業日数 : 5日 (週当たり計20時間、自習時間数はプログラムにより異なる)
- 研修期間 : 8月中旬 ~ 12月中旬
- 英語研修プログラム : それぞれのレベルに応じた、優れた英語研修プログラムが数多く用意されている。学生はアジア諸国から来ている。
- キャンパス概要 : キャンパスは近代的。学生会館、図書館、コンピューター・ラボ、レクリエーションおよび水泳センターがある。全ての施設は1年中利用可能。夕方にはオウムが集まって来る。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : 大学側が手配
- ホームステイの食事 : 週16食

(4) 所在地 (町、市) の情報

- 市の人口 : ウォロンゴング市ー約34万人
- 最寄りの空港 : シドニー国際空港
- 最寄りの大都市 : シドニー (北に80km、列車で約1時間半)
- 気候 : 9、10月 23℃
11、12月 28℃
この時期はオーストラリアでは夏に当たる。
- 生活費 : 平均的



2. ニュー・キャッスル大学 (University of Newcastle)

Language Centre

University Drive, Callaghan, NSW, Australia 2308

Phone: 61-2-4921-5376 Fax: 61-2-4921-7068

Contact : Ms. AnChi Baxter, Administrative Officer

(1) 紹介

ニューキャッスル市は、美しいオーストラリア東海岸に位置し、都市生活と田舎生活の両方の良さを堪能出来る町である。素晴らしいビーチ、穏やかな天候、気取りのないライフスタイルで生活費も比較的安い。レストラン、カフェ、公園、劇場、アートギャラリー、ショッピングセンター等があり、退屈しない。水泳、サーフィン、ボードセーリングを楽しめるビーチも沢山ある。キャンパスは、ユーカリの林に囲まれたニュー・キャッスル市の郊外にある。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約23,000人 *年によって異なる。
- 語学研修生数 : 約200人 (日本人が13%) *年によって異なる。
- 必要TOEFL点数 : なし
- 研修に必要な週数 : 15週
- 週当たりの授業日数 : 5日
- 研修期間 : 8月下旬～12月下旬
- 英語研修プログラム : 各レベルに合った優れた数多くの英語研修プログラムが用意されている。多くの学生はアジア諸国から来ている。
- キャンパス概要 : 言語センターは大学の真ん中に位置している。レストラン、売店、理髪店、旅行代理店、本屋、保健室、郵便局、銀行を備えた学生会館も構内徒歩2分のところにある。スカッシュコート、テニスコート、クリケット、サッカー、野球が出来る運動場、バスケットボールコート、完備されたジムがある運動施設場も構内徒歩5分のところにある。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : 大学側が手配
- ホームステイの食事 : 週16食

(4) 所在地 (町、市) の情報

- 市の人口 : ニューキャッスル市ー約40万人
- 最寄りの空港 : シドニー空港
- 最寄りの大都市 : シドニー市
- 気候 : 温暖。夏は暑く、冬は温かい。
- 生活費 : 比較的安い

3. ワイカト大学 (The University of Waikato)

Waikato Pathways College
PO Box 1317, Waikato Mail Centre, Hamilton, New Zealand
Phone: 64-7-858-5600 Fax: 64-7-858-5694
Contact : Ms. Dianne Moffitt, CAEL Program Coordinator

(1) 紹介

オークランドから車で南にちょうど1時間、ハミルトン市にあるワイカト大学の英語研修プログラムセンターは、街中のキャンパスにあり非常にモダンな建物である。ハミルトン市は人口10万人を超え、ニュージーランドでは第4番目に大きい町だが、園芸品と馬の牧畜で有名な、のどかで自然が豊富な環境に位置する。学生達は、このような静かで安全な環境の中で勉学に励むことが出来る。

(2) プロフィール

大学生数	:	約11,417人	*年によって異なる。
語学研修生数	:	約1,738人	(日本人が35%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし	
研修に要する週数	:	16週	
週当たりの授業日数	:	5日	
研修期間	:	8月下旬～12月初旬	
英語研修プログラム	:	各レベルに合った優れた英語研修プログラムが用意されている。アジアからの学生が多い。	
キャンパス概要	:	ワイカト大学は近代的なキャンパスで、コンピューター、図書館、スポーツ・センター、学生／教職員用のクラブなど種々の設備を持っている。	

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	大学側が手配
ホームステイの食事	:	週21食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	:	ハミルトン市ー約13万人
最寄りの飛行場	:	ハミルトン空港 (オークランド空港から乗り継ぎ)
最寄りの大都市	:	オークランド市: 車で北へ約1時間半 (120km)
気候	:	研修プログラムの開始時期は冬の終わりに当たる
生活費	:	中程度

4. オタゴ大学 (University of Otago)

University of Otago Language Center (UOLC)
PO Box 56, Dunedin, 9054, New Zealand
Phone: 64-3-479-1100 Fax: 64-3-479-8692
Contact : Dr. Paul Baker, Director

(1) 紹介

オタゴ大学はニュージーランドで最初に創設（1869 年）され、その研究内容の質では常に首位に立つ。その構内の快適かつ機能的な校舎で授業を行う。

世界 80 カ国からやってきた 2500 人の留学生を含む 2 万人の学生が大学および大学院で人文、保健科学、科学、ビジネスを学んでいる。

ダニーデンは留学生に温かい安全な都市。学術都市として国際的な知名度も高く、レストランやバー、カフェ、コンサート会場、美術館、博物館、スポーツ施設なども充実している。車で 3 時間ほど離れたクィーンズタウンでは、スキーやジェットボート、バンジージャンプ、ワイナリー見学などが楽しめる。

(2) プロフィール

大学生数	:	約 20,752 人	*年によって異なる。
語学研修生数	:	約 200 人（日本人が 15%）	*年によって異なる。
必要 TOEFL 点数	:	なし	
研修に要する週数	:	16 週	
週当たりの授業日数	:	5 日	
研修期間	:	8 月初旬～12 月上旬	
英語研修プログラム	:	各レベルに合った、優れた数多くの英語研修プログラムが用意されている。	
キャンパス概要	:	世界 25 カ国以上から集まった学生が共に学んでいる。学生証の提示により、学内の情報サービス、24 時間アクセス加納なコンピューター施設、学生医療サービス、クラブやサークル、カフェなどを利用することができる。	

(3) 宿泊設備

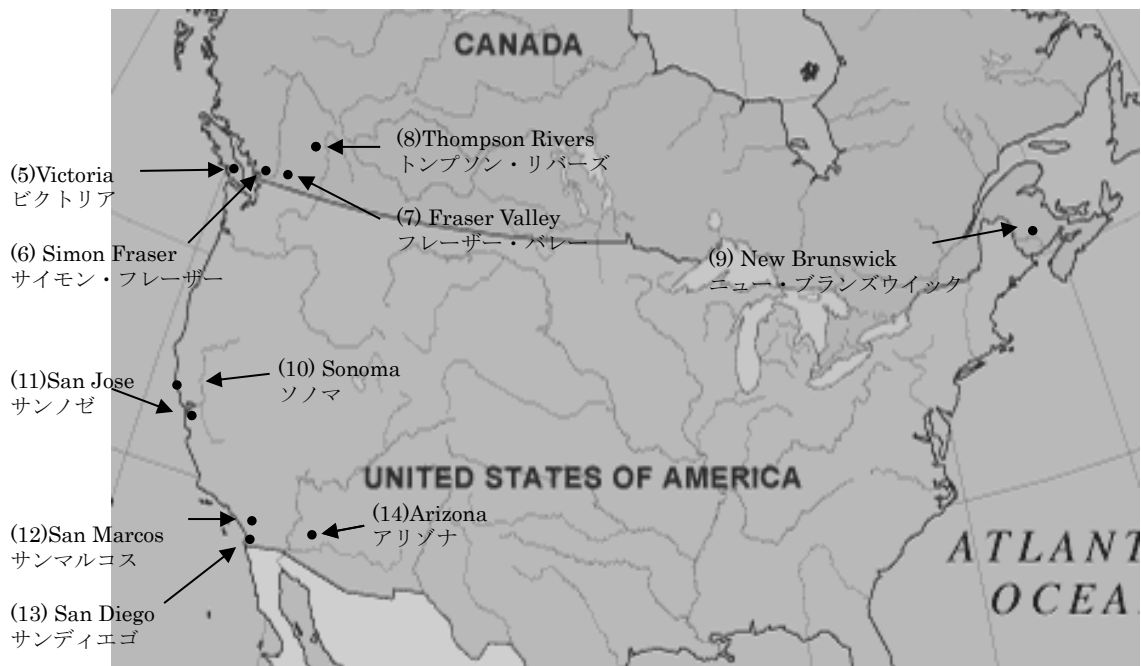
ホームステイ	:	大学側が手配
ホームステイの食事	:	1 日 3 食（週 21 食）

(4) 所在地（町、市）の情報

市の人口	:	ダニーデン市、12 万人
最寄りの飛行場	:	ダニーデン国際空港
最寄りの大都市	:	ダニーデン市
気候	:	研修プログラムの開始時期は冬の終わりに当たる
生活費	:	中程度

Canada and the United States

カナダ及びアメリカ合衆国



Canada

- (5) University of Victoria
- (6) Simon Fraser University
- (7) University of the Fraser Valley
- (8) Thompson Rivers University
- (9) University of New Brunswick

United States of America

- (10) Sonoma State University
- (11) San Jose State University
- (12) California State University at San Marcos
- (13) San Diego State University
- (14) Arizona State University

5. ビクトリア大学 (University of Victoria)

English Language Centre
3800 Finnerty Road/PO Box 1700 STN CSC, Victoria,
British Columbia V8W 2Y2 Canada
Phone: 1-250-721-8950 Fax: 1-250-721-6276
Contact : Dr. Jackie Prowse, Director

(1) 紹介

ブリティッシュ・コロンビア州は、カナダで最も気候が温暖で、1年を通して過ごしやすい。ビクトリアは西海岸にある島で、バンクーバーとは飛行機、フェリーなどで結ばれている。昔、英国に支配されていたため、チューダー調やビクトリア調の建物が並び、英国の趣を残す。“庭の街”(City of Gardens)としても知られ、文化・娯楽施設や活発な商業地域を持つ州都である。ビクトリア大学はカナダ5大学のひとつに数えられ、広大な敷地内にあらゆる施設を備えている。アジア太平洋地域の研究が盛んなことで知られる。

(2) プロフィール

大学生数	:	約17,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	約400人 *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	なし
研修に要する週数	:	16週(4週と12週の2期に分かれる)
研修期間	:	8月初旬～12月初旬
英語研修プログラム	:	各レベルに合った英語研修プログラムが用意されている。クラスの規模は小さい。学生はアジア、南米、ヨーロッパ諸国から来ている。
キャンパス概要	:	街の中心部から徒歩15分でビーチへも歩いていける距離にある。公園のように美しい敷地内には、図書館、コンピュータ・ラボ、運動施設(ジム、体育館、屋内外プール、テニス・スカッシュコート等)、レストラン、旅行代理店、売店、郵便局、映画上映室を備えた学生会館がある。

(3) 宿泊設備

学生寮	:	サマーコース(前期)で利用
学生寮の食事	:	週21食
ホームステイ	:	後期に利用。大学側が手配
ホームステイの食事	:	週21食

(4) 所在地(町、市)の情報

市の人口	:	ビクトリア市ー約35万人
最寄りの空港	:	ビクトリア空港(バンクーバーから乗り継ぎ)
最寄りの大都市	:	バンクーバー市
気候	:	カナダの中では温暖
生活費	:	日本の平均的な物価に比べて安め

6. サイモン・フレーザー大学 (Simon Fraser University)

English Language & Culture Program

515 West Hastings Street, Vancouver, British Columbia V6B 5K3 Canada

Phone: 1-778-782-5126 Fax: 1-778-782-7965

Contact : Mr. Bertland Lee, Instructional Coordinator

(1) 紹介

バンクーバーはカナダ西海岸に位置する、海と山に囲まれたカナダ第3の都市である。多様な人種、文化を有する都市生活とアウトドアライフを楽しめる魅力的な街である。

(2) プロフィール

大学生数	:	約28,000人 *年によって異なる。
語学研修生数	:	約150人 (日本人が15%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	:	450 (望まれる点数であり、必須ではない)
研修に要する週数	:	16週 (12週と4週の2期に分かれる)
週当たりの授業日数	:	5日
研修期間	:	9月上旬～12月下旬
英語研修プログラム	:	各レベルに合った英語研修プログラムが用意されている。学生はアジア、南米、ヨーロッパ諸国から来ている
キャンパス概要	:	「ハーバーセンターキャンパス」と「バーナビーマウンテンキャンパス」の2カ所あり、本学の研修生はバンクーバー市内にある「ハーバーセンターキャンパス」に通うことになる。メインキャンパスである「バーナビーマウンテンキャンパス」の建物は歴史的価値があり、これまで何度も建築関係の賞を受賞している。研修生はここにある図書館、ジム、プール等を利用できるが、距離が離れているため現実的には定期的な利用は難しい。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	:	First Choice International Placement 社によって手配される。
ホームステイの食事	:	週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	:	バンクーバー市域ー約200万人
最寄りの空港	:	バンクーバー国際空港
最寄りの大都市	:	バンクーバー市
気候	:	カナダの中ではもっとも温暖
生活費	:	カナダの中では高め

7. フレーザー・バレー大学 (University of the Fraser Valley)

International Education Department

33844 King Road, Abbotsford, British Columbia, V2S 7M8 Canada

Phone: 1-604-854-4544 Fax: 1-604-855-7153

担当 : Ms. Dea Freschi, Director

(1) 紹介

大学があるアボッツフォードはバンクーバーから東に約1時間30分、ブリティッシュコロンビア州南部の地方都市である。米国との国境に近い。フレーザー・バレー大学は5つのキャンパスに分かれ、本学の研修はその中のアボッツフォードキャンパスで行われる。小規模ではあるが、豊かな自然に恵まれた静かで安全な町にある大学である。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約11,000人 *年によって異なる。
語学研修生数 : 約250人 (日本人が15%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数: 特に制限はないが、初級レベルと判断された場合には参加できない。
以下のプログラムへの参加には条件があるため、事前の相談要。
大学基礎レベル1 : 500
大学基礎レベル2 : 550 *年度によって変わる場合がある。
- 研修に要する週数 : 15週
週当たりの授業日数 : 5日
研修期間 : 9月初旬～12月中旬
英語研修プログラム: リーディング、語彙、会話及び聞き取り、ライティング及び文法の他に選択科目があり、「カナダの文化とコミュニケーション」、「インターアクティブ・コミュニケーション」、「オンライン・リーディング」、「映画」、「発音」等から2科目を選ぶことができる。語学力によって6段階にレベル分けされる。週18時間から24時間の授業の他にインデペンデント・スタディーが加わる。
*年度によって変わる場合があるので、ホームページでチェックする必要あり。
- キャンパス概要 : アボッツフォード、チリワック、他5つのキャンパスに分かれている。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : Global Partners Institute 社によって手配される。
ホームステイの食事: 週21食

(4) 所在地 (町、市) の情報

- 市の人口 : アボッツフォード市ー約15万人、チリワック市ー約5万人
最寄りの空港 : バンクーバー空港
最寄りの大都市 : バンクーバー市 (100万人、西に80キロ)
気候 : 温暖、冷涼
生活費 : 日本の平均的な物価に比べて安め

8. トンプソン・リバーズ大学 (Thompson Rivers University)

TRU World

900 McGill Road/PO Box 3010, Kamloops

British Columbia, V2C 5N3 Canada

Phone: 1-250-371-5528 Fax: 1-250-828-5140

担当 : Ms. Dian Henderson, ESL Chairperson and Rika Kimura, International Student Advisor

(1) 紹介

大学があるカムループ市は、バンクーバーと世界的に有名なスキー場のあるバンフの間に位置する人口約8万人の小さな町である。治安が良く、人々は親切で、語学研修生には過ごしやすい町である。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約8,000人*年によって異なる。
- 語学研修生数 : 約250人(日本人が10%) *年によって異なる。
- 必要TOEFL点数 : なし
- 研修に要する週数 : 16週
- 週当たりの授業日数 : 5日
- 研修期間 : 8月下旬 ~ 12月中旬
- 英語研修プログラム : 各レベルに合った英語研修プログラムが用意されている。クラスの規模は小さい。
- キャンパス概要 : 約10万平方メートルの広大な構内にはあらゆる施設が整っている。学生会館、運動施設、図書館、コンピュータ・ラボ、レジャー施設等があり、学内で十分に学び、楽しめる。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : 大学側が手配
- ホームステイの食事 : 週21食

(4) 所在地(町、市)の情報

- 市の人口 : カムループ市-約8万人
- 最寄りの空港 : カムループ空港(バンクーバーから乗り継ぎ)
- 最寄りの大都市 : バンクーバー市(飛行機で1時間、車で4時間)
- 気候 : 寒冷(北海道程度)
- 生活費 : 日本の平均的な物価に比べて安め

9. ニュー・ブランズウィック大学 (University of New Brunswick)

English Language Programme

College Hill/PO Box 4400, Fredericton, New Brunswick E3B 5A3 Canada

Phone: 1-506-453-3564 Fax: 1-506-453-3578

担当 : Ms. Shawna Kirkbride, Program Assistant/Administrator

(1) 紹介

大学があるニュー・ブランズウィック州の州都であるフレデリクトン市は、300年前に出来た古い街で、歴史的価値の高い建物が多く残っている。ゆったりと流れる幅広いセント・ジョン川と、それを見下ろすような丘は、なだらかで豊かな木々に覆われ、大学を含めた街全体に特別な趣きを与えている。「赤毛のアン」の作者であるL. M. モンゴメリーの住んだプリンス・エドワード島や、今は博物館になっているモンゴメリーの住居は日帰りで行ける距離にある。市内では英語だけでなく、フランス語を話す人も多く見かける。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約1,400人*年によって異なる。
- 語学研修生数 : 約230～360人(11%が日本人)*年によって異なる。
- 必要TOEFL点数 : なし
- 研修に必要な週数 : 16週
- 週当たりの授業日数 : 原則5日(土曜日に授業が行われる場合もある)
- 研修期間 : 9月上旬～12月中旬
- 英語研修プログラム : 少人数制の超集中型プログラムであり、学生の語学能力は飛躍的に伸びる可能性がある。
- キャンパス概要 : ニュー・ブランズウィック大学は1785年に設立され、北米大陸に現存する最も古い公立大学の1つである。古代美術の講義棟はカナダで現在でも使用されている大学の建物としては最も古く、歴史的町並みと川を見下ろす丘の上に立っている。特に秋の紅葉は素晴らしく、学生や大学を訪れる人たちの大きな楽しみの一つとなっている。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : 大学側が手配
- ホームステイの食事 : 週14食

(4) 所在地(町、市)の情報

- 市の人口 : フレデリクトン市—約47,000人
- 最寄りの空港 : フレデリクトン空港(モントリオール国際空港またはハリファックス空港経由)
- 最寄りの大都市 : モントリオール市(521マイル)
米国、ボストン市(408マイル)
- 気候 : 秋は肌寒い程度だが、12月(11月からの場合もある)は降雪が多く、非常に寒い。
- 生活費 : 中位から上

10. ソノマ州立大学 (Sonoma State University)

Sonoma State American Language Institute (SSALI)
1801 East Cotati Avenue, Rohnert Park, CA 94928-3609
Phone: 1-707-664-2742 Fax: 1-707-664-2749
担当 : Ms. Debra Crow, International Student Coordinator

(1) 紹介

ソノマ市はカリフォルニアワインの産地として有名である。ソノマ州立大学は総合大学であり、バラエティーに富んだ教育内容を誇る。自分で考える力をつけさせること、コンピュータをマスターさせることを大学の大きな目標としている。TOEFL(iBT) のスコアが高い学生(61 点以上)は、正規科目の履修が可能である。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約 10,000 人 * 年によって異なる。
- 語学研修生数 : 約 30 ~ 40 人 * 年及び時期によって異なる。
- 必要 TOEFL 点数 : なし。但し、正規科目履修 (ブリッジプログラム) 希望者は、TOEFL iBT 61 点以上が必要である。ブリッジプログラムは本学研修プログラムとは異なった時期にスタートし、年度によって内容が変わるため、希望者は事前に相談のこと。
- 研修に要する週数 : 15 週
- 週当たりの授業日数 : 5 日
- 研修期間 : 8 月上旬 ~ 12 月中旬
- 英語研修プログラム : 各レベルに合った優れた英語研修プログラムが用意されている。
- キャンパス概要 : 約 90 万平方メートルの広さを誇る美しいキャンパスは、ソノマ丘陵のふもとに位置する。図書館、運動施設、学生会館等の施設も整っている。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : International Student Placement(ISP)社が手配
- ホームステイの食事 : 週 16 食

(4) 所在地 (町、市) の情報

- 市の人口 : ロナートパーカー約 4 万人
- 最寄りの空港 : サンフランシスコ空港
- 最寄りの大都市 : サンフランシスコ (車で 45 分)、バスで 2 時間
- 気候 : 温暖
- 生活費 : 宮崎と同程度

1 1. サンノゼ州立大学 (San Jose State University)

International Gateways
San Jose State University
Industrial Studies Building, Room 227
San Jose, CA 95192-0215
Phone: 1-408-924-2660 Fax: 1-408-924-2669
Contact: Ms. Sarah McGregor, Director

(1) 紹介

1975年以来、International Gateways (SAL(Studies in American Language)から名称変更)は学術的、実務的、キャリア上のニーズに応える優れた英語教育を提供している。そのカリキュラムには、直にアメリカ文化を体験するためのフィールドトリップなどの様々な活動が組み込まれ、学生にとってやりがいのある教育内容となっている。サンノゼの気候は、一年を通して過ごしやすい、穏やかな気候であり、平均して300日以上晴天に恵まれる。魅力的なサンフランシスコやバークリー、驚くほど美しいビーチのあるサンタクルーズやカーメルは、サンノゼ大学キャンパスからすべて一時間以内のところに位置している。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約32,000人 *年によって異なる。
語学研修生数 : 約150人 (日本人は約8%) *年によって異なる。
必要TOEFL点数 : なし。TOEFL(iBT)71点以上の学生には正規授業を受講する機会が与えられる可能性がある。希望者は早めに相談のこと。
研修に要する週数 : 17週
週当たりの授業日数 : 5日
研修期間 : 8月中旬～12月中旬
英語研修プログラム : SALの集中英語プログラムはシリコンバレーの中心部にある大学キャンパスで行われる。英語学習者のニーズに合わせた様々なプログラムが提供され、英語のスキルアップや様々なアメリカ文化を体験するためには理想的な大学と言える。また、高い英語力を持つ学生には大学の正規授業を受ける機会が与えられるのも特徴の一つである。
キャンパス概要 : サンノゼ州立大学は、1857年に初の公立の高等教育機関として西海岸に設立された、歴史のある大学である。キャンパスはシリコンバレーの中心部に位置し、これまで、特に工学、科学、ビジネスの分野で多くの優秀な卒業生を輩出している。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : International Student Placement(ISP)社が手配
ホームステイの食事 : 週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

- 市の人口 : サンノゼー約95万人
最寄りの空港 : サンノゼ国際空港、サンフランシスコ空港
最寄りの大都市 : サンフランシスコ約150万人
気候 : 冬は温暖、夏は暖かい
生活費 : 日本よりもやや高い

12. カリフォルニア州立大学サンマルコス校 (California State University San Marcos)

American Language & Culture Program

San Marcos, CA 92096-0001

Phone: 1-760-750-3200 Fax: 1-760-750-3779

担当: Mr. Grant Parsons, Director and Junko Miyoshi, Representative for Japan

(1) 紹介

大学があるサンマルコス市は、サンディエゴ市街から約50キロの地方都市で、サンマルコス丘陵地帯に位置する。サンディエゴ動物園や、ディズニーランド、サンファン・カピストラーノ伝道所等の観光名所や、ビーチ、山岳地帯、砂漠などへも車で2時間程度で行ける。同大学は在学生の97%がカリフォルニア州出身。地域密着型の大学と言える。

(2) プロフィール

大学生数	: 約7,500人 *年によって異なる。
語学研修生数	: 約40人 (日本人が1/3) *年によって異なる。
必要TOEFL点数	: なし。
研修に要する週数	: 16週
週当たりの授業日数	: 5日 (金曜日は休みの場合もある)
研修期間	: 8月中旬～12月初旬
英語研修プログラム	: コミュニケーション、アメリカ文化、集中アカデミック準備プログラム等のプログラムがあり、授業は週18時間～25時間。会話のパートナーとしてサンマルコス大学の学生が付く。高い英語力を持った学生には、正規の授業科目受講の機会が提供される可能性がある。
キャンパス概要	: 1989年創立の新しい大学である。建物や施設も新しい。サンディエゴ郊外に位置する。

(3) 宿泊設備

ホームステイ	: Homestay Services International によって手配される。
ホームステイの食事	: 週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

市の人口	: 約60,000人
最寄りの空港	: サンディエゴ空港
最寄りの大都市	: サンディエゴー約150万人
気候	: 一般的に温暖。夏季は日差しが強く気温が高いが、乾燥している。
生活費	: 宮崎に比べて若干高め

13. サンディエゴ州立大学 (San Diego State University)

American Language Institute (ALI)

5250 Campanile Drive, San Diego, CA 92182-1914 USA

Phone: 1-619-594-5907 Fax: 1-619-287-2735

担当 : Dr. Robert Snell, Director of the Intensive English for Communication (IEC) Program

(1) 紹介

最高ランクに入るカリフォルニアの州立大学に学びながら、南カリフォルニアの魅力あふれる生活が楽しめる。サンディエゴはすがすがしい気候、様々な野外活動、健康的なライフスタイルを実現できる都市として、全米で最も住んでみたい都市ベスト10に入っている。山にも海にも近い、恵まれた環境を持つ。ALI (American Language Institute)の規模は大きく、世界中から多くの留学生が英語の勉強に訪れる。英語上級レベルに達した学生には、大学の正規授業を受ける機会が提供される。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約33,000人 *年によって異なる。
- 語学研修生数 : 約550人 (日本人が15%) *年によって異なる。
- 必要TOEFL点数 : なし
- 研修に要する週数 : 17週
- 週当たりの授業日数 : 5日
- 研修期間 : 8月中旬～12月中旬
- 英語研修プログラム : 集中型英語コミュニケーションプログラムとして、多レベル構成のプログラムを持つ。上級レベルの学生には大学の正規授業を受ける機会が提供される。多くの国から学生が来ているが、中でもアジア諸国からの学生が特に多い。
- キャンパス概要 : キャンパスの広さは300エーカーあり、台地の上に位置する。建物はスペイン調である。通常大学に備わっている典型的な設備、例えば学生会館、コンピュータ・ラボ、図書館等に加え、世界的水準のアクアティック・センター (サーフィン、ボート、その他のウォーター・スポーツができる) なども持つ。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ : 大学側が手配
- ホームステイの食事 : 週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

- 市の人口 : サンディエゴ市 (全米第6番目の都市) ー約150万人
- 最寄りの空港 : サンディエゴ国際空港
- 最寄りの大都市 : ロサンゼルス (南端まで車で2時間半)
- 気候 : 温暖
- 生活費 : 中位から比較的高い程度

14. アリゾナ州立大学 (Arizona State University)

American English & Culture Program (AECP)
PO Box 873504, Tempe, AZ 85287-3504, USA
Phone: 1-480-965-2376 Fax: 1-480-965-8529
担当 : Ms. Claire McLaughlin, Director

(1) 紹介

アリゾナ州はカリフォルニア州とメキシコの間に位置し、グランドキャニオンとソノラン砂漠で有名である。1年のうち300日は晴天という典型的な砂漠気候。テンペ市は小さな街で、「太陽の谷(The Valley of the Sun)」、もしくは大フェニックスメトロポリタン地域として知られている。大学はレストラン、カフェ、映画館などが軒を並べる大通りに面する。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約51,000人 *年によって異なる。
- 語学研修生数 : 約200人 (日本人が20%) *年によって異なる。
- 必要TOEFL点数 : なし。但し、500点以上の学生は、ブリッジコースという大学入学予備コースで履修できる可能性がある。
- 研修に要する週数 : 17週
- 週当たりの授業日数 : 5日
- 研修期間 : 8月中旬～12月中旬
- 英語研修プログラム : アメリカ英語&文化プログラム(AECP)。6段階に分かれており、1クラス原則15人以下である。週21コマで課外活動も盛んである。
- キャンパス概要 : 1885年設立。広大な公園のようなキャンパスは、様々な種類の樹木、花、サボテンに囲まれており、実際に国立植物園としても有名である。施設としては、24時間開館の図書館や240台以上設備しているコンピュータ施設のほか、学生会館にはレストラン、コンビニエンスストア、ビリヤード場やボーリング場もある。レクリエーションセンターには、ジム、屋外プール、ラケットボールコート、テニスコート、サッカーやソフトボール用運動場、バレーボールコート等がある。

(3) 宿泊設備

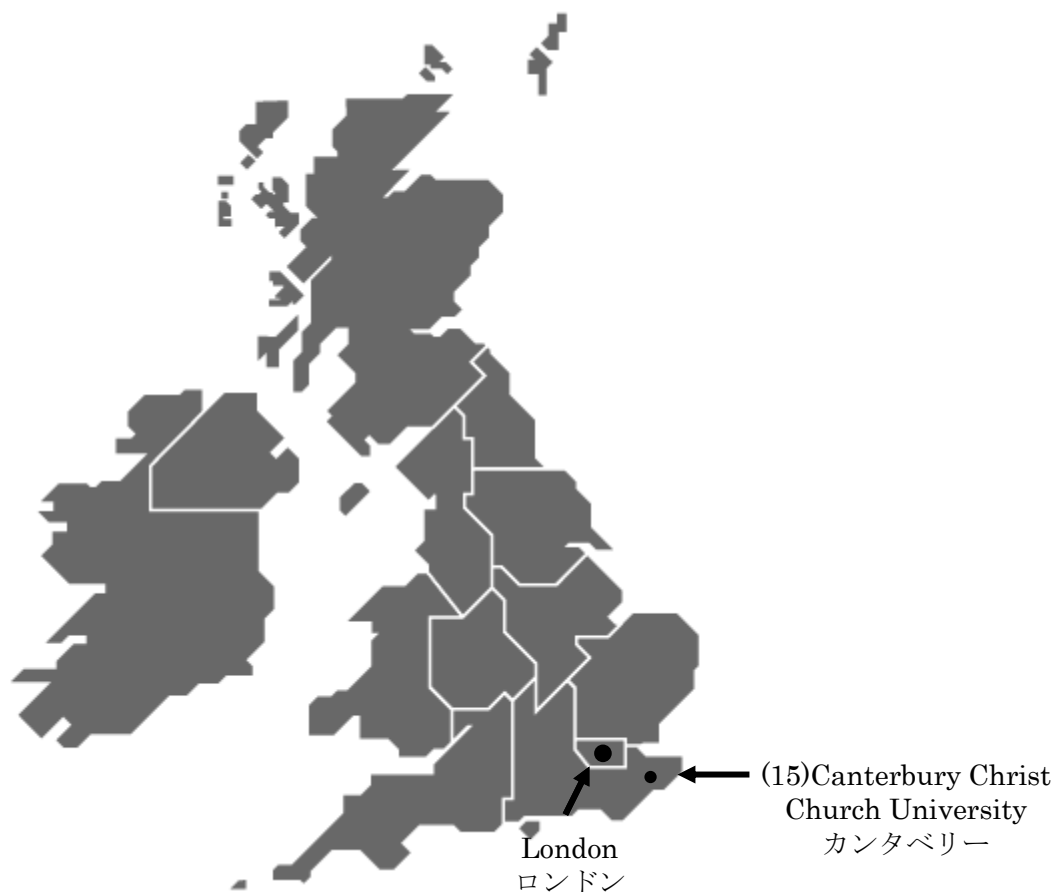
- ホームステイ : OvECS, Ltd.社によって手配される。
- ホームステイの食事 : 週14食

(4) 所在地 (町、市) の情報

- 市の人口 : テンペ市ー約16万人
- 最寄りの空港 : スカイハーバー国際空港 (車で15分)
- 最寄りの大都市 : フェニックスー人口130万人 (車で30分)
- 気候 : 晴天の日が多く乾燥している。
- 生活費 : 日本の平均的な物価よりも若干安め

England

イギリス



(15) Canterbury Christ Church University

15. カンタベリー・クライスト・チャーチ大学 (Canterbury Christ Church University)

International Programmes

North Holmes Road, Canterbury, Kent, CT1 1QU UK

Phone: 44-1227-458459 Fax: 44-1227-781558

担当: Ms. Camilla Gibbons, International Programmes Assistant

(1) 紹介

英国南東部の歴史ある街カンタベリーにあり、ロンドンからは列車で東に2時間、イギリス海峡から1時間以内のところに位置する。この街には世界遺産となった歴史的名所が3箇所（11世紀に建造されたカンタベリー大聖堂、6世紀建造のセント・オーガスティン大修道院、同じく6世紀建造のセント・マーチン教会）あるほか、中世の建造物が数多く残っており、町全体が歴史の香りが漂うたたずまいを見せている。

(2) プロフィール

- 大学生数 : 約14,000人 *年によって異なる。
- 語学研修生数 : 夏期:約80名、秋期:約60名（日本人が25%）
*年によって異なる。
- 必要TOEFL点数: なし
- 研修に必要な週数: 17週
- 研修期間: 8月下旬～12月下旬
- 英語研修プログラム: リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング、ボキャブラリー、グラマーに加え、選択科目として、地域社会及び英国研究、歌、ドラマ、ビデオ制作、映画研究、雑誌編集、文学、時事研究等がある。
- キャンパス概要: こじんまりとした近代的なキャンパスである。セント・オーガスティン大修道院跡に隣接している。イングリッシュランゲージプログラムの建物は18世紀の歴史的な建造物である。

(3) 宿泊設備

- ホームステイ: 大学側が手配
- ホームステイの食事: 週14食

(4) 所在地（町、市）の情報

- 市の人口: ボロー市-13.2万人
- 最寄りの空港: ヒースロー空港（キャンパスまで列車で1時間半から2時間）
- 最寄りの大都市: ロンドン
- 気候: 温暖、多湿、曇りがち
- 生活費: 平均的な日本の物価と同程度

